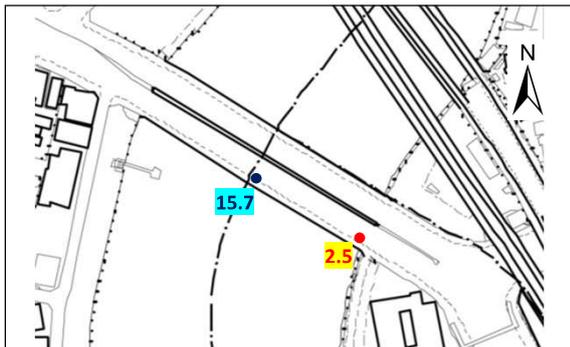


照度分布

単位：Lx（ルクス）



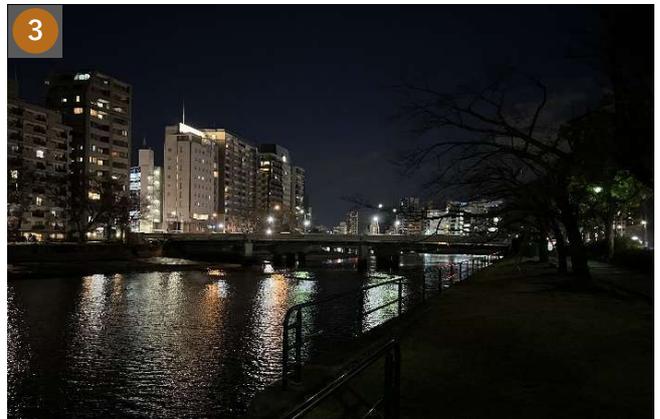
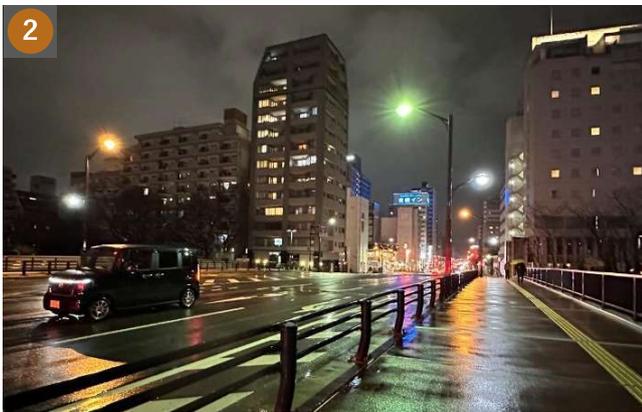
考察

京橋川上流寄りの橋梁。

橋上は一般的な白色拡散型の橋上道路照明で、歩行に必要な明るさは確保されているが、河川空間の夜間景観への影響を考慮し、電球色とすることが望ましい。

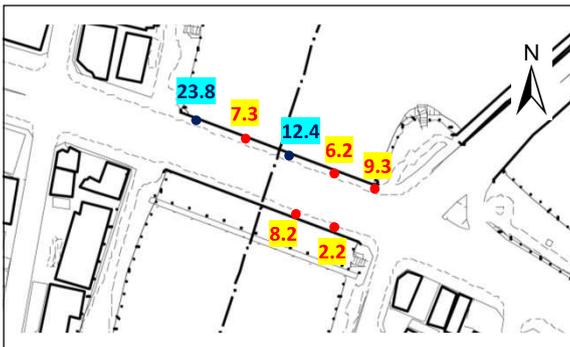
調査エリア全体の評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx (ルクス)



考察

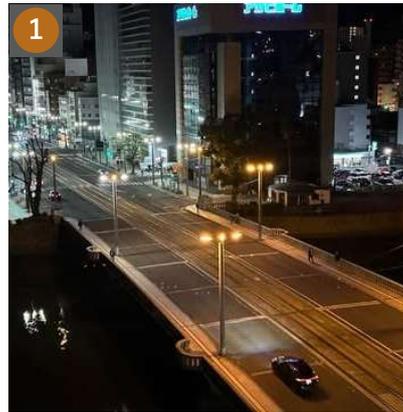
広島駅から中心市街地に向かうルートとして今後さらに利用者増が見込まれる橋梁。

見られる橋というより、通行し視点場となる橋梁。京橋川オープンカフェ方向や、京橋川分岐点を眺める視点場として、橋上空間の充実も図ったほうがよい。

現状は、拡散型の道路・歩道照明で、現時点では色温度はナトリウム色と白色が混在しているため、今後の改修時には、道路・歩道とも下方配光で電球色とすることが望ましい。

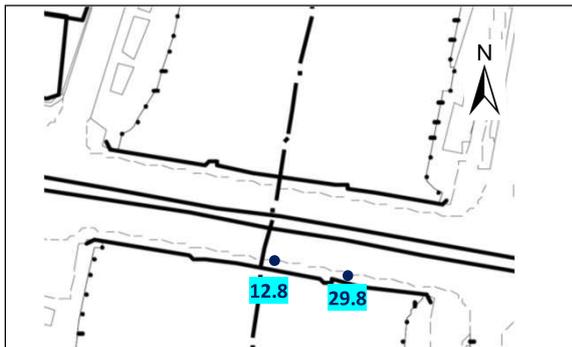
調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx (ルクス)



調査エリア全体の評価

色温度	混在・カラー演出
グレア	有り
鉛直面の明るさ	有り
陰影のバランス	最適

考察

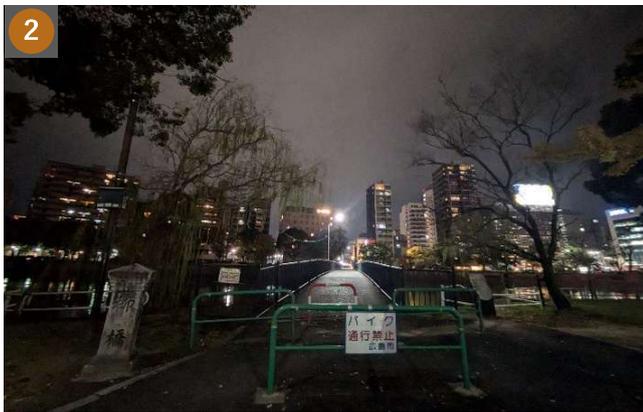
広島駅から中心市街地や平和記念公園へと向かう路面電車やバスのメインルートである相生通りに架かる橋梁。

また、相生通りは徒歩移動においてもメインルートであるため、広島市内の回遊性向上にとって重要な橋梁と言える。

上流側は、京橋川オープンカフェに近接するため、本橋梁も側面にライトアップが実施されている。

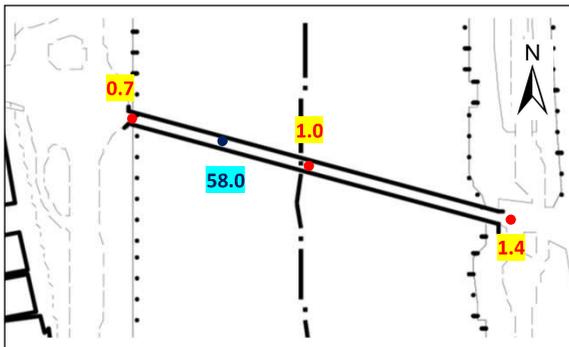
上記プログラムは、京橋同様に更新することが望ましい。

下流側に柳橋方向を望む視点場であり、兩岸の遊歩道から見られる視対象にもなるため、下流側の側面もライトアップした方が良い。



照度分布

単位：Lx (ルクス)



考察

明治期に住民によって架橋された歴史ある人道橋。稲荷大橋から見る水と緑の眺めの中心となる橋梁。現況は、一般的な橋上歩道照明によって白く機能的に照らされており、路面照度にはムラがある。グレアも高い。

護岸にある柳のライトアップとともに、手すり間接照明を整備することで、渡っても眺めても魅力的な橋梁となり得る。

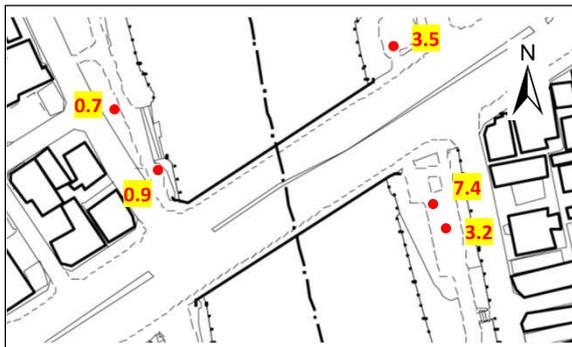
調査エリア全体の評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx (ルクス)



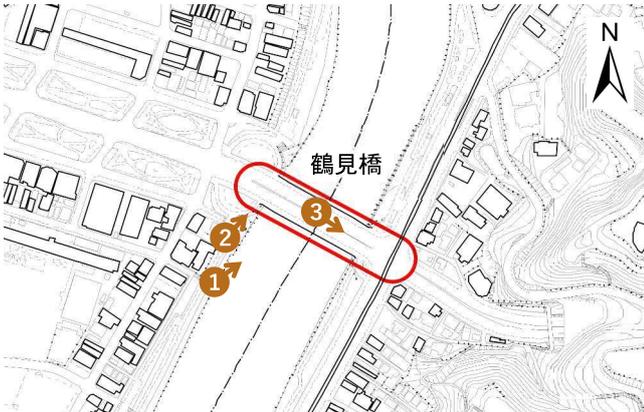
考察

広島駅から平和大通りや国道2号線に至る車両のメインルートにかかる橋梁。

オリジナルデザインの道路照明は白色LEDの下方配光で橋上は十分な明るさが確保されているが、河川空間の夜間景観への影響を考慮し、電球色とすることが望ましい。

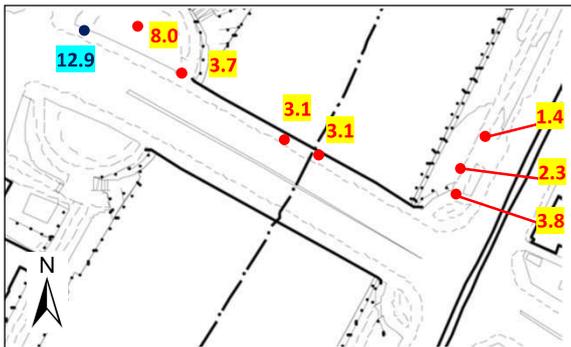
調査エリア全体の評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx (ルクス)



考察

平和大通りから比治山に向かうルート of 橋梁。
 橋上は拡散型のデザイン街灯で、グレアの割に路面の明るさは確保できていない。
 夜間、比治山方向への徒歩利用者数が多い場合は、デザイン街灯の灯体のみをスポットライトに変更するなどして路面の明るさを確保する必要がある。
 歩行者や自転車利用者の目線高さに合わせて手すり間接照明を整備することで、渡っても眺めても魅力的な橋梁となり得る。

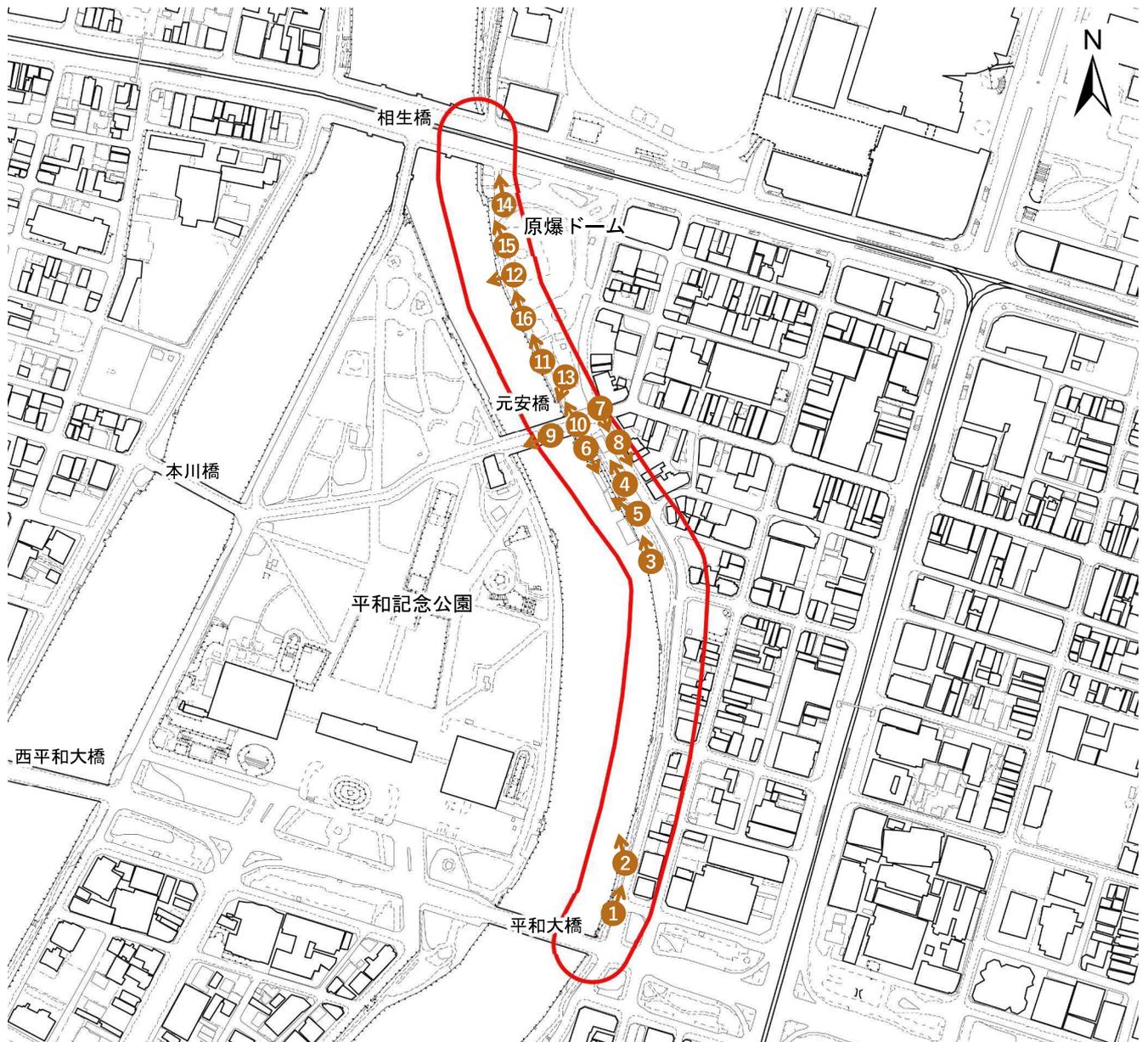
調査エリア全体の評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

エリアの特徴

原爆ドームや平和記念公園へのアクセスルートであり、平和大橋側からも相生橋側からも多くの観光客の通行が見受けられる。

元安橋東詰には水辺のオープンカフェがある。





1

平和大通りから原爆ドームへつながる遊歩道。カラー演出のある歩道照明があるが、明るさ感創出に機能していない。



2

暗すぎる遊歩道を多くの外国人がスマートフォンで路面を照らしながら歩行している。早急な改善が望ましい。



3

オリジナルの歩道照明は歩行の明るさ感に寄与しておらず、樹木が大きな暗がりをつくっており不安感を高めている。



4

店舗が見えてくると視野に明るさ感が感じられ、安心感が高まる。店舗横のテーブルエリアは暗がりとなっており、樹木の照明演出などがあれば安心感が高まる。



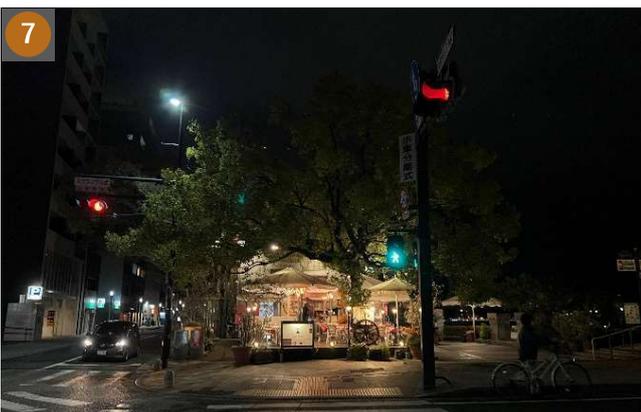
5

船着き場の夜景。浮き橋も重要なランドマークであるが、夜間景観として生かされていない。



6

オープンカフェの前は明るさも十分に心地よい。過ごしたくなる魅力のある屋外空間となっている。



7

元安川オープンカフェのエンタランス部。非常に感じの良いカフェの漏れ光。安心感もつくっている。



8

大木の下でのテーブルとベンチ。あかりが無いため夜間はあまり使われていない。



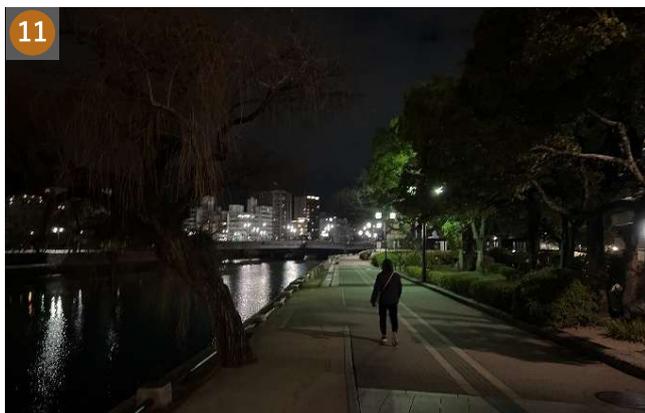
9

再現された美しい元安橋。クラシカルな照明も良い。欄干も細かなライティングがあり渡る楽しみがある。



10

豊かな緑がここでも不安な暗がりをつくっている。



11

原爆ドームに続く道。白いグレアのある歩道照明が連なる。明るさは歩けないほどではないが心地よい雰囲気ではない。



12

原爆ドーム側から平和記念公園を望む。水際は歩ける明るさが確保されている。



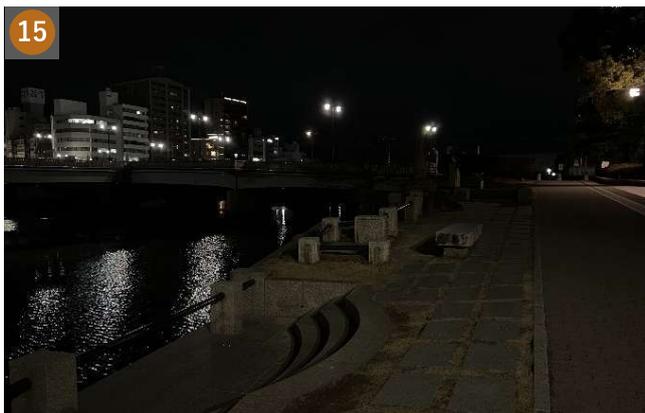
13

あかりが灯されている元安橋。水に映る姿も美しい。



14

グレアの高い白色の歩道照明と電球色のものが混在する環境。歩行には支障のない明るさ。



15

ドーム前の護岸エリアは、評価の高い土木デザインであるが、夜間には視認できないほど暗い。

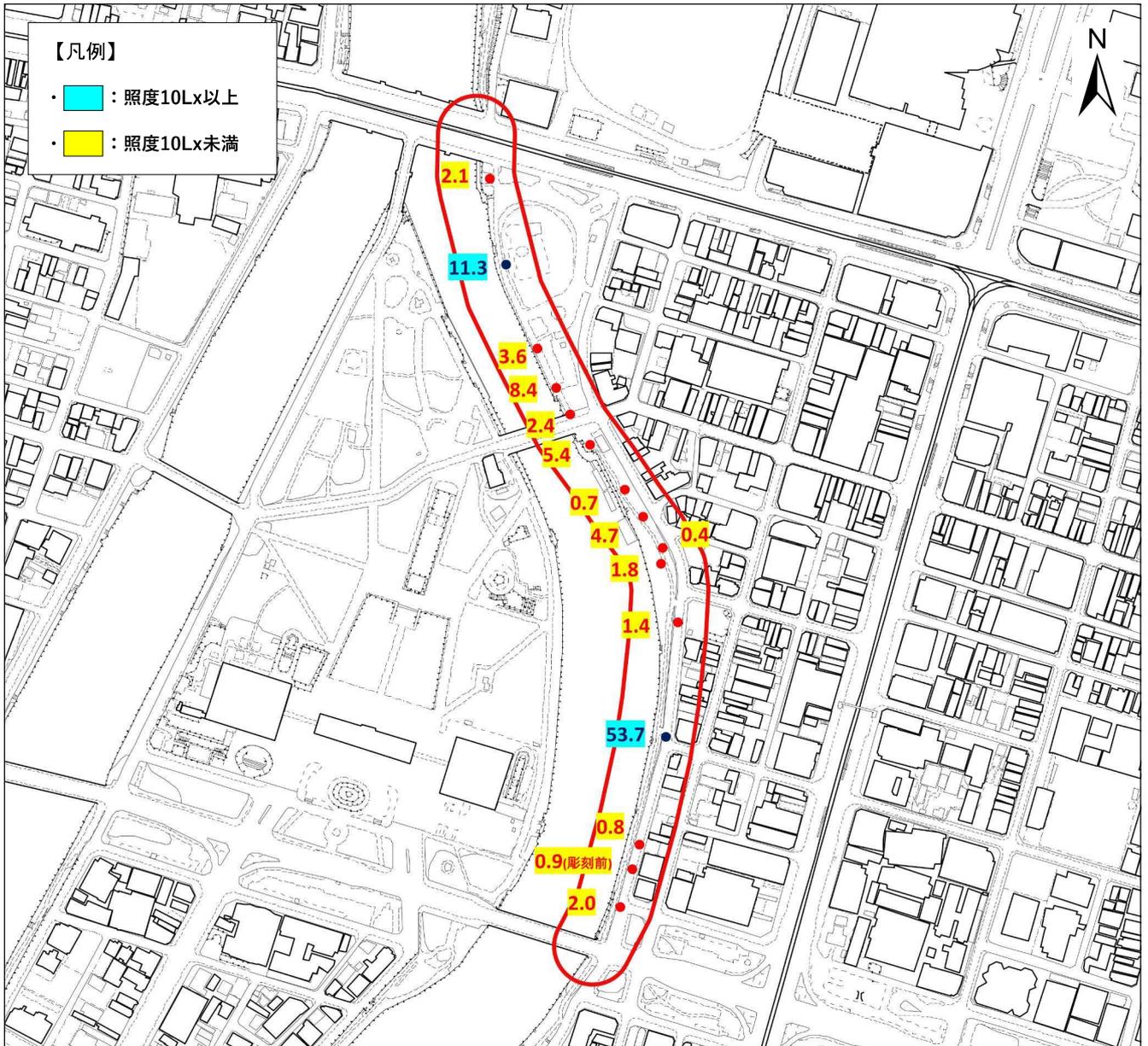


16

原爆ドーム前の遊歩道。白い歩道照明は原爆ドームにも当たってしまっている。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

考察

元安橋から平和大橋の間の遊歩道は、歩行のためのあかりと樹木のライトアップによって快適な夜間環境に整える必要がある。

平和大橋から見る元安橋方向の水辺や、相生橋から見る原爆ドームを含む河川夜景は、平和都市広島を象徴する重要な水辺夜景であるため、早急に改善が必要である。

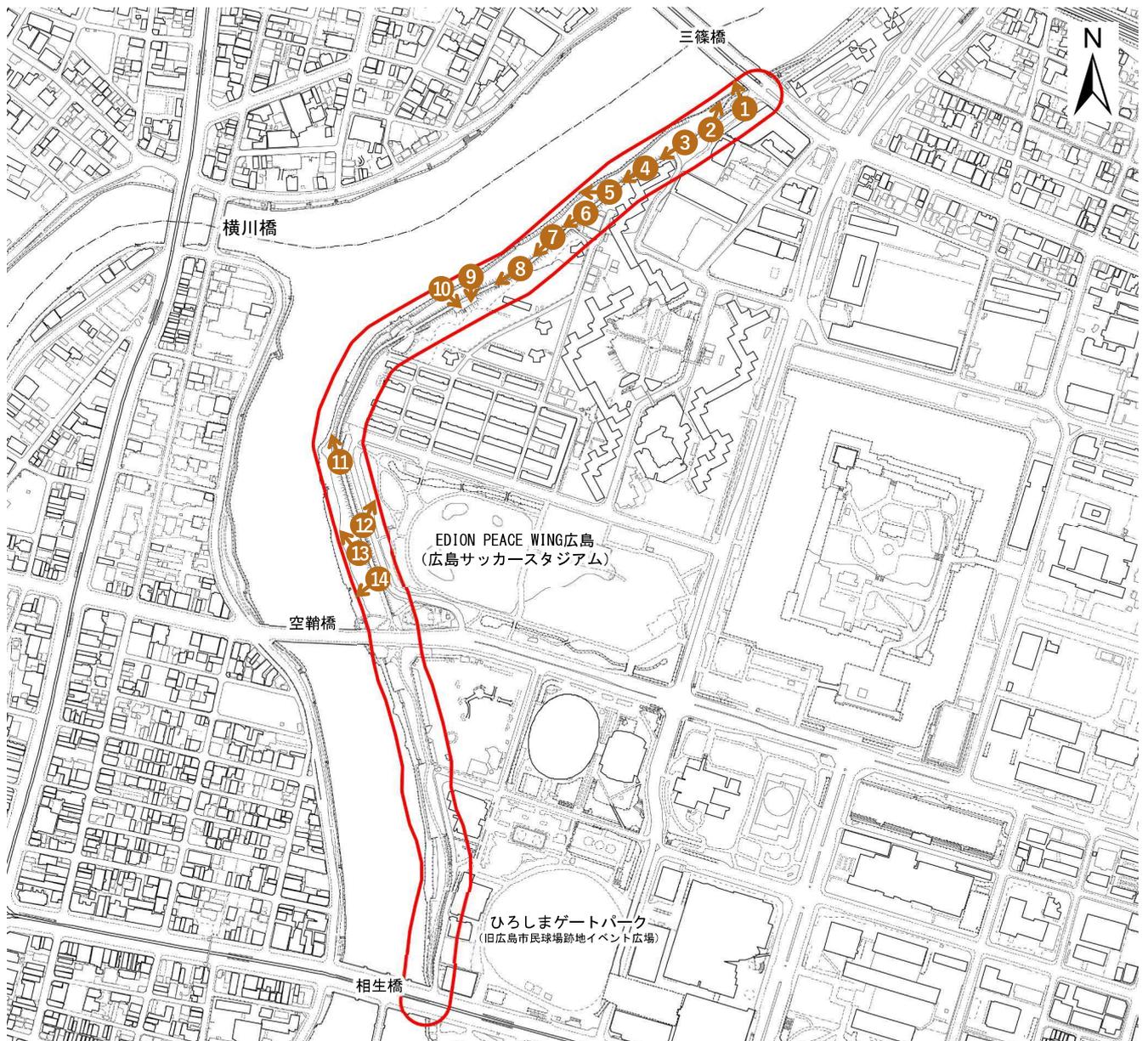
エリアの特徴

広々として美しく修景された河川緑地が続く三篠橋から相生橋までのエリアは、基町環境護岸として整備されている。

多くの市民が夜間もジョギングや散歩などで利用している。

本エリアは、ひろしまスタジアムパークの「水辺ひろば」にもなっており、SUPをはじめとする水辺のアクティビティを楽しむことができるエリアである。

桜並木があり、春には花見客が多く訪れている。





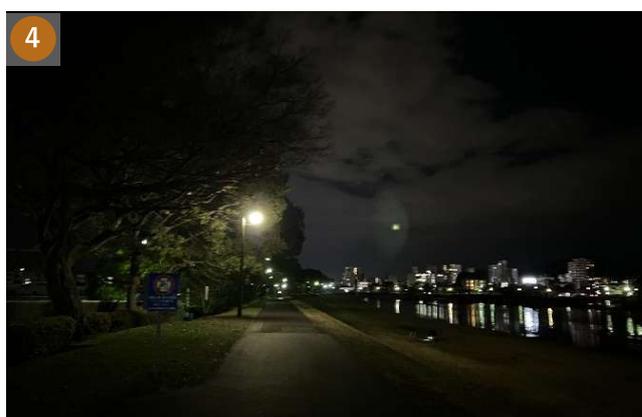
1 三篠橋周辺の様子。白い照明が多く、寒々しい印象。



2 三篠橋の様子。



3 三篠橋側からの基町環境護岸遊歩道。寂しそうで一人で歩くのは不安を感じるが、ジョギングなどの利用はある。



4 照明はあるが、白色でグレアも高い。



5 豊かに育った並木と心地よい芝生が広がる護岸。あかりは白色。グレアが高い。対岸は集合住宅と中規模ビルが混在しているが、水面に光が写り込むため、眺める対象になる。



8 多くの人が懐中電灯を持参しており、明るさ感を高めるような改善が必要である。



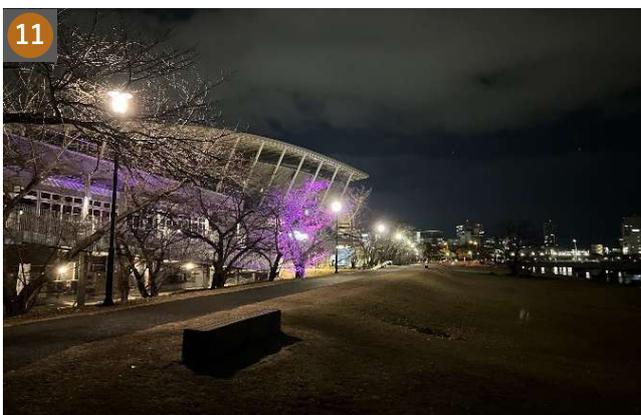
7 基町地区は大型の団地もあり、遊歩道は夜間にも利用されている。



9 慰霊碑も暗くて寂しい。



10 展示された遺構周辺も暗い。わずかなあかりでもあれば、歴史を学ぶ機会となる。



11 サッカースタジアム周辺。十分な明るさは確保されているが、園路照明はグレアがある。カラー演出がされている樹木がある。



12 白色の園路照明で芝生エリアの明るさも確保している状態。見えないことはないが美しくないし、グレアも高い。



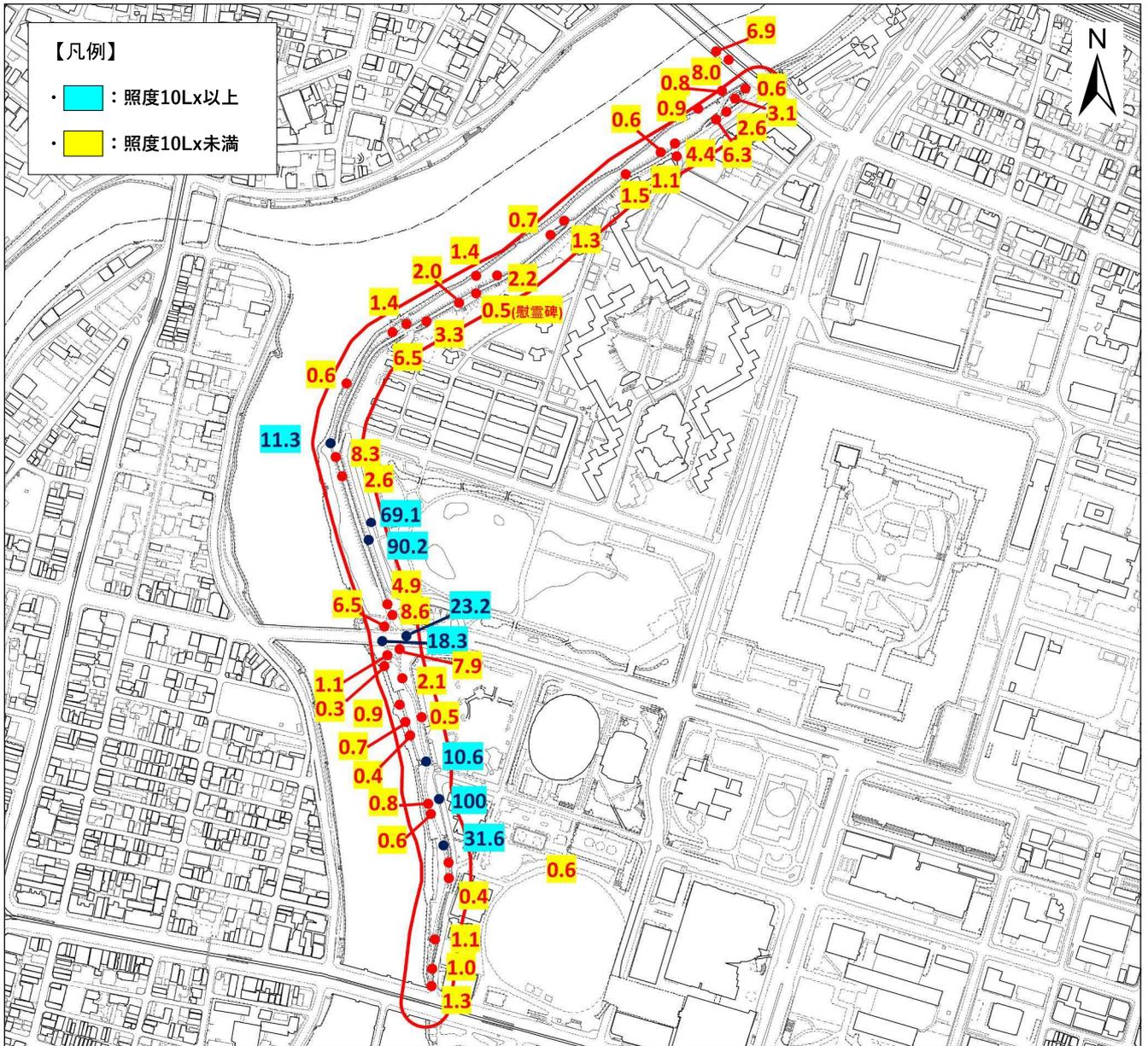
13 夜間にも対岸を眺め、佇める場所であるが、あかりが無いので、利用されていない。



14 基町環境護岸エリア全域は、照明設備が少なく、桜並木も夜間に楽しめる環境とはなっていない。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

考察

基町環境護岸として、美しい河川空間がデザインされ、市民にも愛されているエリア。

ひろしまスタジアムパーク及びひろしまゲートパークが完成し、それらの水辺エリアとして新たな地域活用の期待が高まるゾーンであるが、照明設備が最低限しか整備されておらず、美しい芝生エリアや視界の開けた場所については、夕刻や夜間にも快適に使うということは難しい状況。

市民が懐中電灯を持参してジョギングしているなど、良好な夜間景観の整備が早急に必要と言えるエリア。

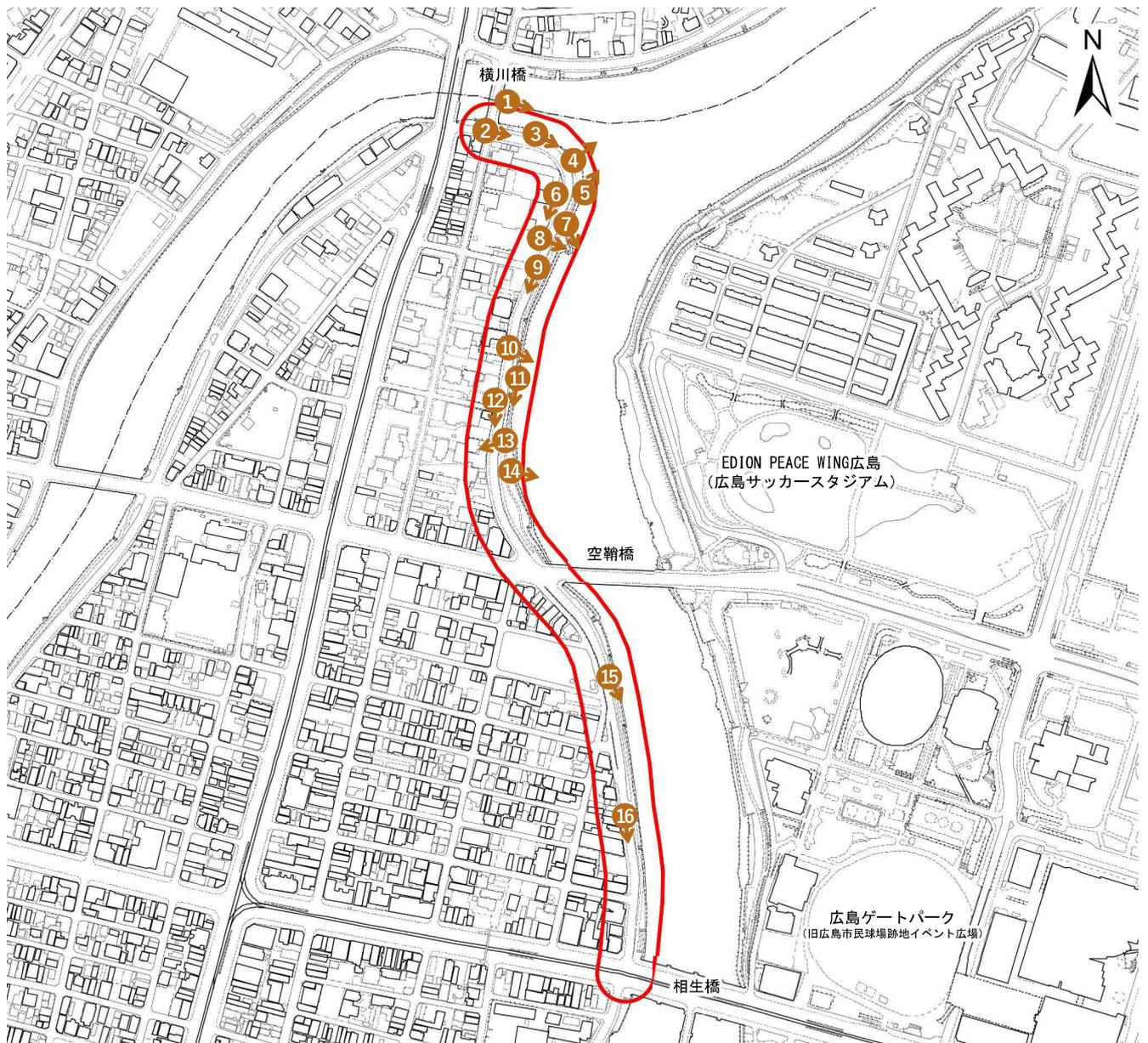
エリアの特徴

基町環境護岸や中央公園を眺める水辺として、遊歩道が整備されている。

サッカースタジアムを背景とする本川の眺めは、「水の都ひろしま」らしい風景と言える。

横川駅からサッカースタジアムに向かう人流がある。

夜間暗い中でもランニングやジョギングをする人が多い。





1

大型団地の風景は眺める対象になるが、視点場となる河岸緑地はすべて暗く佇むことができない。



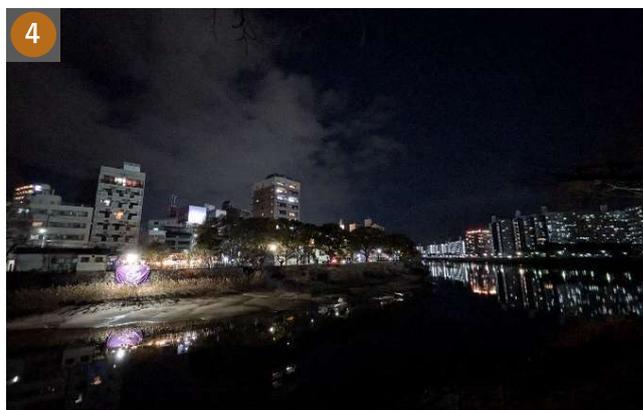
2

十分な明るさのある公衆トイレ付近。



3

天満川分岐点剣先公園。京橋川遊歩道などと同様に豊かな樹木が明るさ感を阻害している。



4

天満川左岸（剣先）から右岸と上流方向を見る。ダイナミックな眺めとなる夜間景観形成が可能。



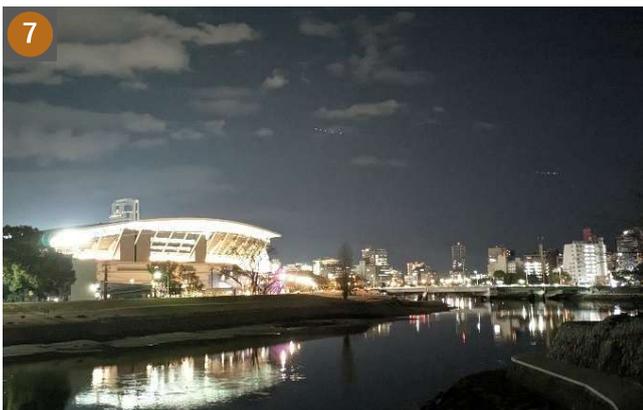
5

シンボリックな桜など、樹木を活かした水辺夜景が形成できる。



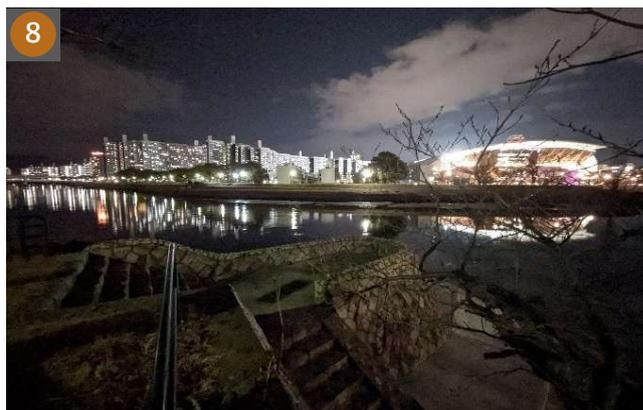
6

旧太田川右岸遊歩道。車道に近いエリアは歩ける明るさが確保されている。



7

スタジアムは重要な夜景ランドマーク。水面に映り込む姿は、周辺も美しくれば名物となるような夜景。



8

デザインされた護岸形状は、照明演出があればオンリーワンのランドマークとなるが現在は暗く利用しにくい。



9 白色でグレアの高い歩道照明。



10 静かな水面にスタジアムが映り込む様子はフォトジェニック。空鞆橋や護岸等にもあかりを追加できるとさらに良くなる。



11 遊歩道から空鞆橋方向を見る。高水敷遊歩道は、上部の照明によって歩ける明るさを確保している場所もある。



12 対岸のスタジアムが創り出す夜景を楽しめる遊歩道であるが、暗すぎて、安心して眺められる場所ではない。



13 グレアはあるが、樹木が強剪定されてきた高木のため灯体と枝が重ならず明るさが取れている遊歩道。



14 桜の広場。遠くに見えるスタジアムのあかりが心地よい。



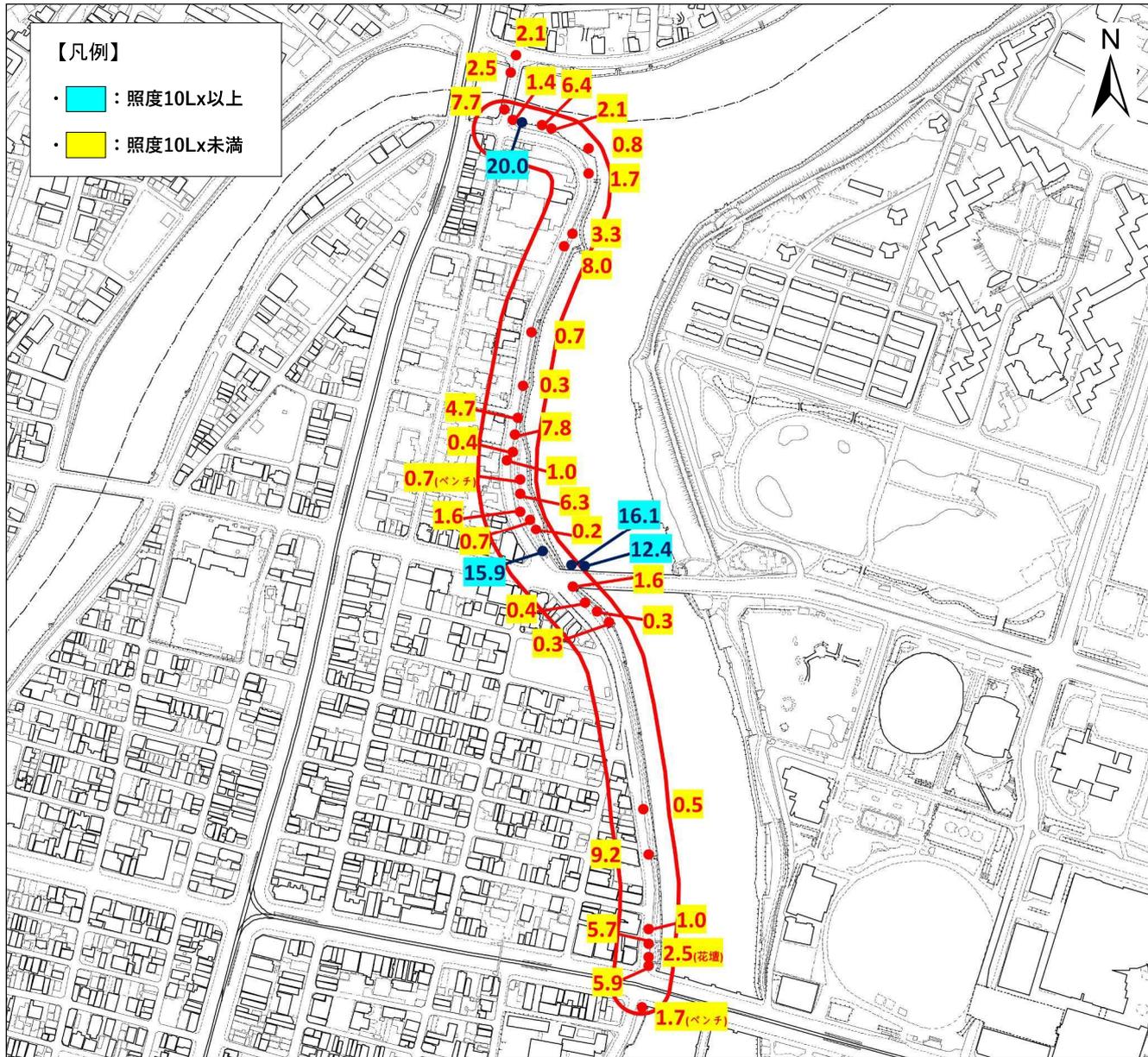
15 不安な暗がりとなっている川沿い遊歩道。



16 沿道のビルからの照明で明るさが確保されている。グレアはあるが、まちの安全・安心には貢献している。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



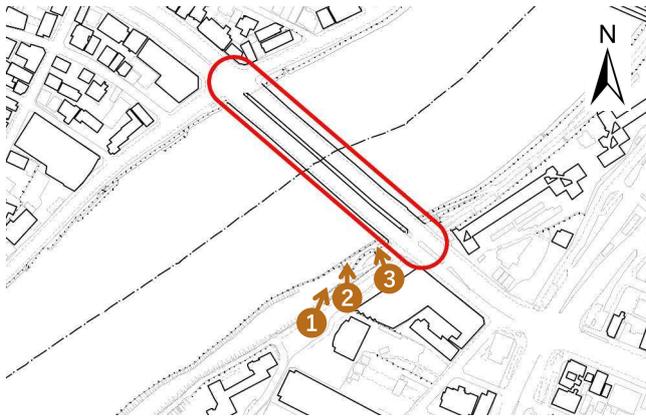
評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

考察

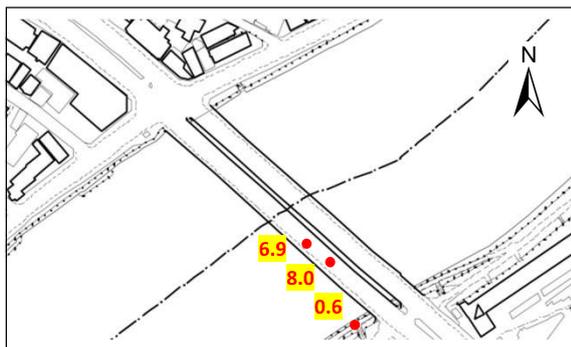
他エリアの河川沿い遊歩道と同様に、不安を感じる暗がりなども散見される。

サッカースタジアムを対岸に見る楽しみのある夜景を見ることができる環境にもかかわらず、照明設備が無く危険を感じるほど暗いため、夜間も安心して眺めることができる空間に改善する必要がある。



照度分布

単位：Lx（ルクス）



考察

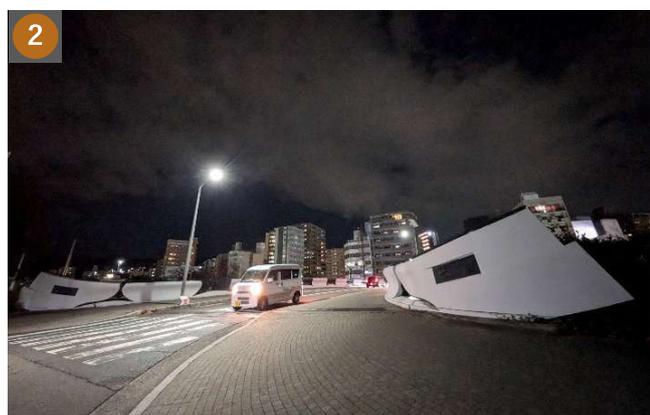
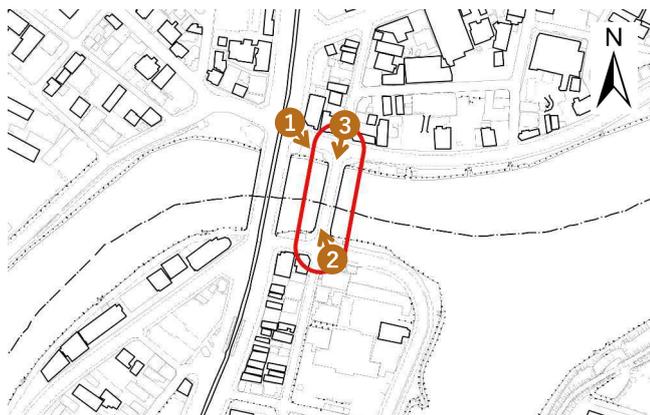
旧太田川の天満川分岐点付近の河川遊歩道から眺めることのできる橋梁。

照明演出があればより魅力的な夜間景観が創出できる。

橋上は一般的な白色の道路照明（下方配光であるが灯体が立ち上がっておりグレアが高い）で明るさは確保されている。

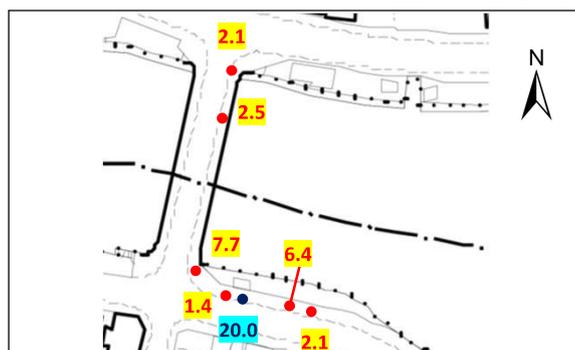
評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx (ルクス)



考察

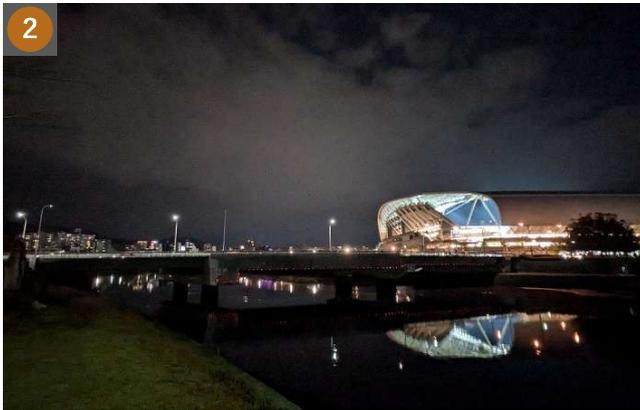
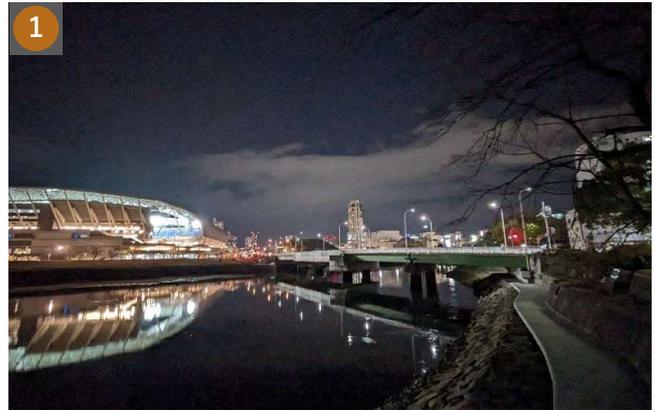
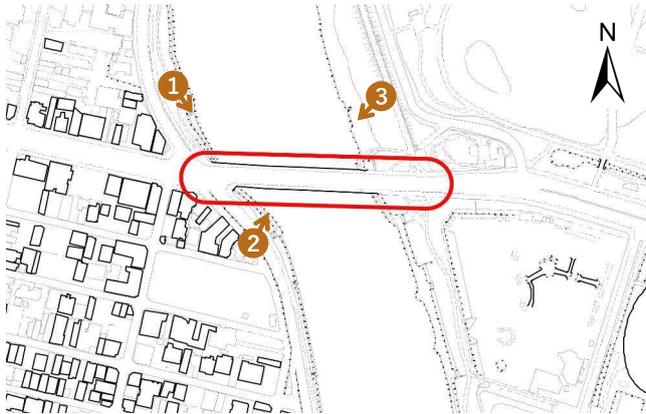
横川駅からサッカースタジアムに行くルートにある天満川にかかる橋梁。

凝ったデザインの親柱と欄干で、それらに照明演出(橋上)があると良い。

歩行者用の照明としては、下方配光の白色道路照明。

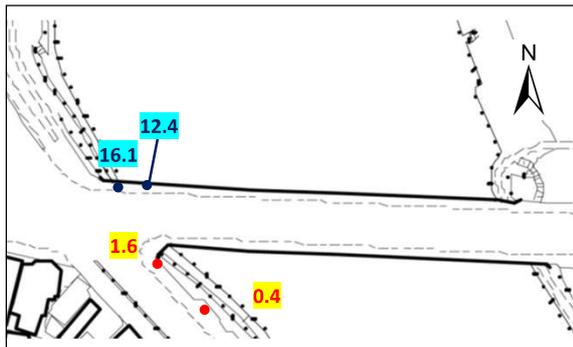
評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx（ルクス）



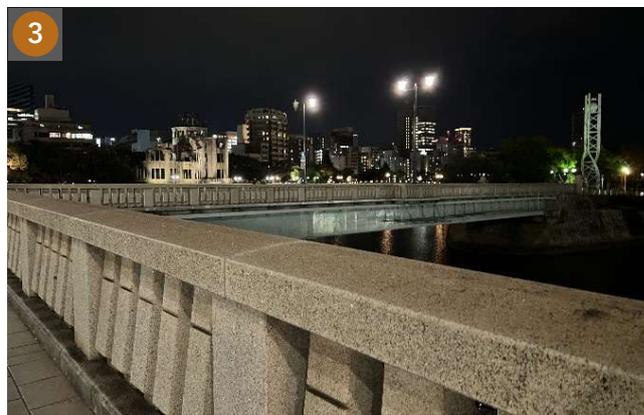
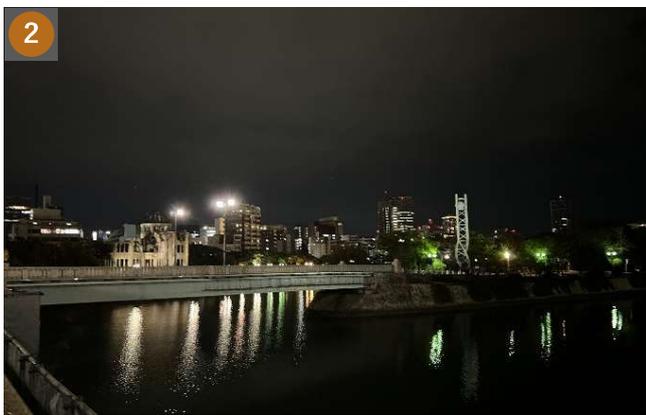
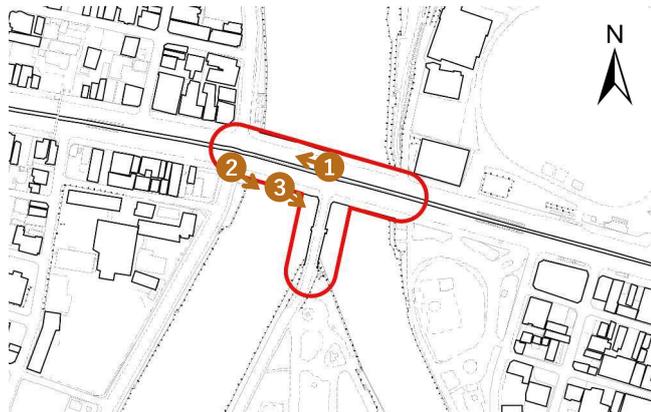
考察

ひろしまスタジアムパークの「水辺ひろば」に近接する橋梁で、サッカースタジアム来場者の通行ルートでもある。

現状は、眺める橋梁としての演出は無い。橋上も一般的なグレアのある白色道路照明のみで、スタジアムに誘う高揚感はない。

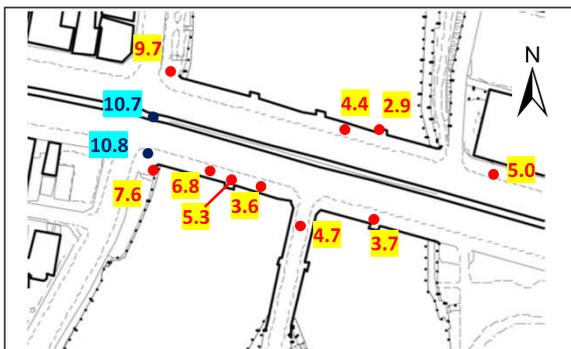
評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx (ルクス)



評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	明るすぎる

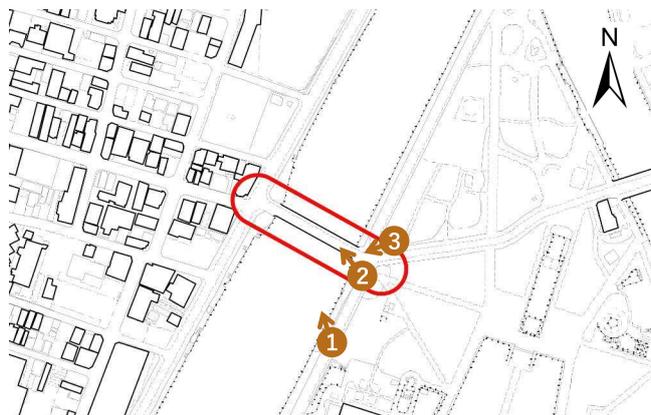
考察

原爆ドームや平和記念公園、ひろしまゲートパークなどにつながる重要な橋梁。重厚な石材の欄干とクラシックスタイルの道路照明。

道路照明は拡散光であるためグレアを感じる。また、白色であるため電球色に変更し、グレアも軽減できると良い。

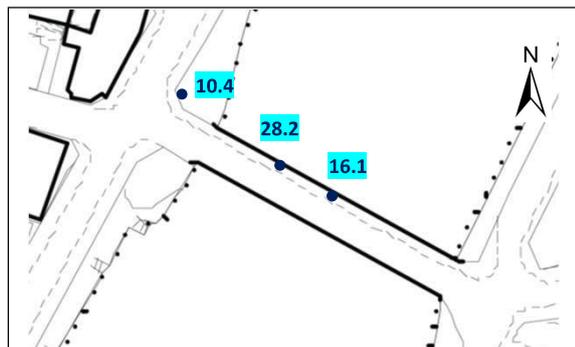
平和記念公園や原爆ドーム側から眺める視対象になるとともに、それらを眺める視点場ともなるため、橋梁の姿だけではなく、橋上空間も魅力的な夜間景観となることが望ましい。

橋上は欄干に手すり間接照明を整備することで印象は良くなる。外側はライン照明によるライトアップが望ましい。



照度分布

単位：Lx (ルクス)



考察

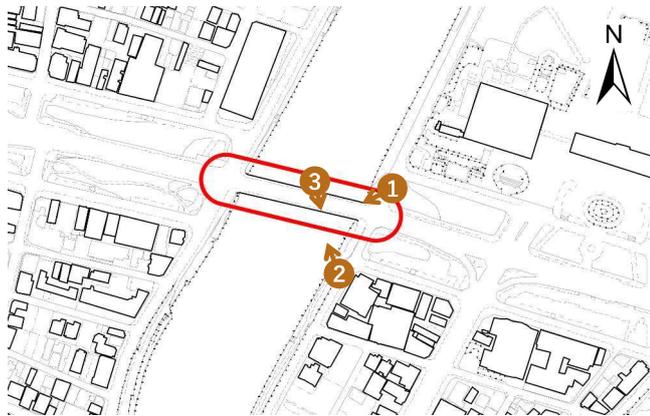
橋脚は明治30年(1897年)製、桁は光海軍工廠の廃材を再利用したもので土木学会選奨土木遺産に認定。

橋上には下方配光の白色LED道路照明で通行のための明るさは十分に確保されているが歴史的な橋梁にもかかわらず、照明演出等はない。

美しいトラスを浮かび上がらせるようなライトアップが望ましい。

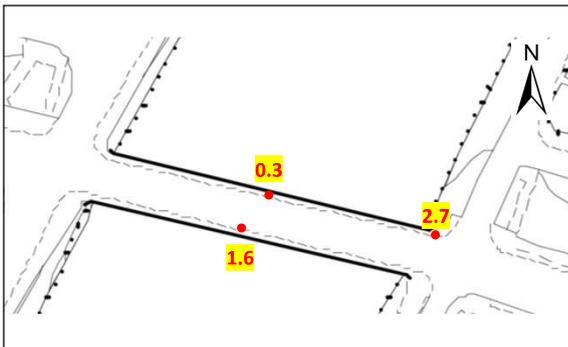
評価

色温度	白色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	明るすぎる



照度分布

単位：Lx (ルクス)



考察

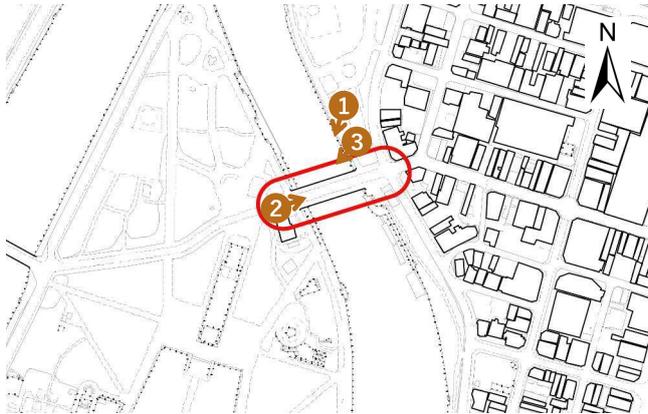
平和大橋とともに、世界的に著名な彫刻家イサム・ノグチ氏がデザインした、現存する唯一の土木構造物であり、平和大橋の欄干と「一对」となっている。

欄干デザインの由来として、イサム・ノグチ氏は、離別の理念をもって「ゆく」と命名している。

現在、歩道橋整備に関する設計を実施中。

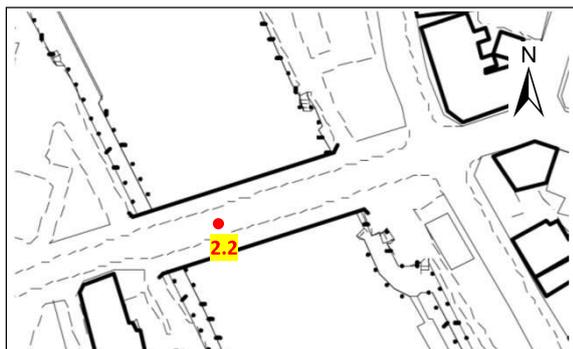
評価

色温度	—
グレア	—
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる



照度分布

単位：Lx (ルクス)

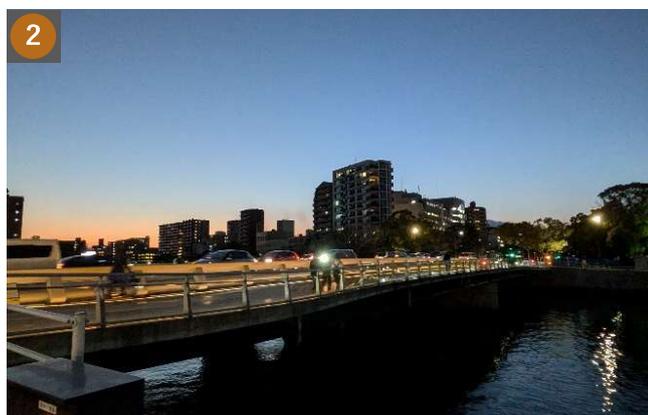
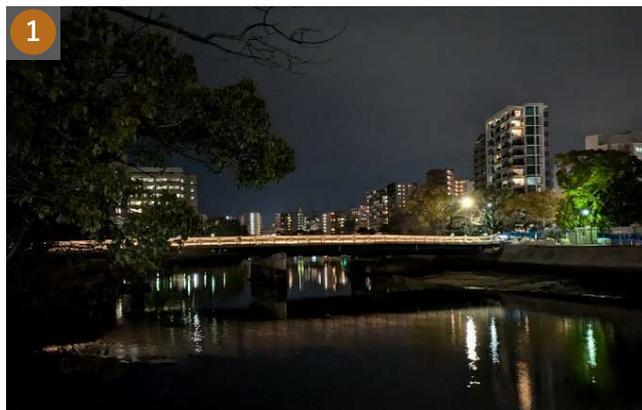
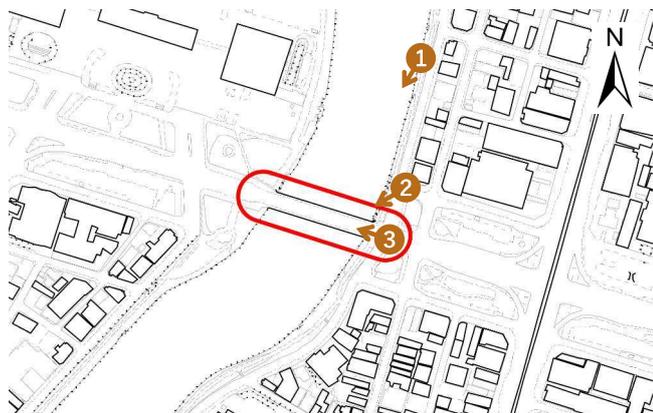


考察

日本百名橋にも選ばれている美しい復元橋梁。
 周辺には元安川オープンカフェやレストハウスがあり、
 平和記念公園へとつながる重要な橋梁。
 装飾性の高い復元橋上照明と欄干のライトアップが
 美しく、現在の状況で夜間景観資源としての価値は高い。

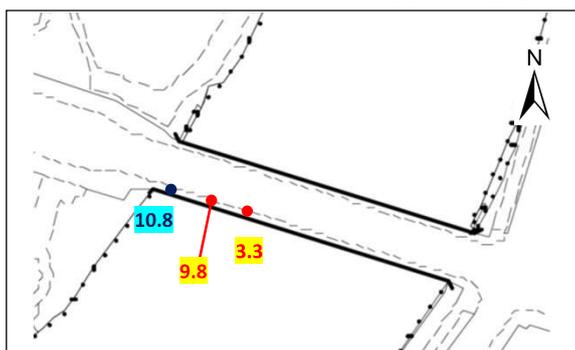
評価

色温度	電球色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	有り
陰影のバランス	最適



照度分布

単位：Lx (ルクス)



考察

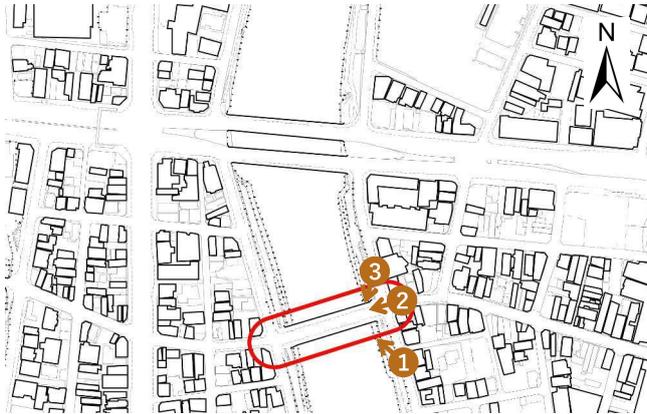
西平和大橋とともに、世界的に著名な彫刻家イサム・ノグチ氏がデザインした、現存する唯一の土木構造物であり、西平和大橋の欄干と「一対」となっている。

欄干デザインの由来として、イサム・ノグチ氏は、建設を意味する「つくる」と命名している。

橋上に道路照明は無く、欄干下部に足元照明が設置されており、平和都市広島を象徴する夜間景観を形成している。

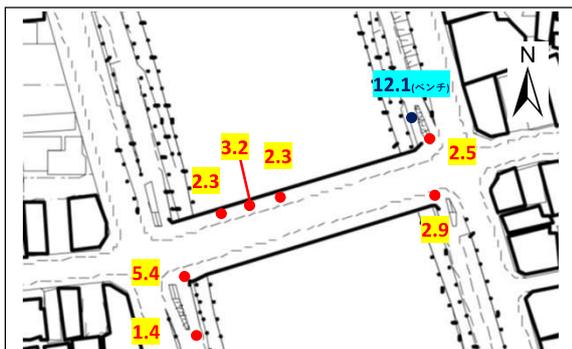
評価

色温度	電球色
グレア	無し
鉛直面の明るさ	有り
陰影のバランス	最適



照度分布

単位：Lx (ルクス)



考察

内藤廣デザインの美しい橋梁。木製手すりが使われている。

橋上は2.5mほどの華奢なポール照明が連投されており、車道でありながら水辺のデッキを思わせる。

華美でも武骨でもなく奇抜でもない良質な景観デザインは、ライトアップ等の演出照明により夜間のランドマークとして機能し得る。

評価

色温度	電球色
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

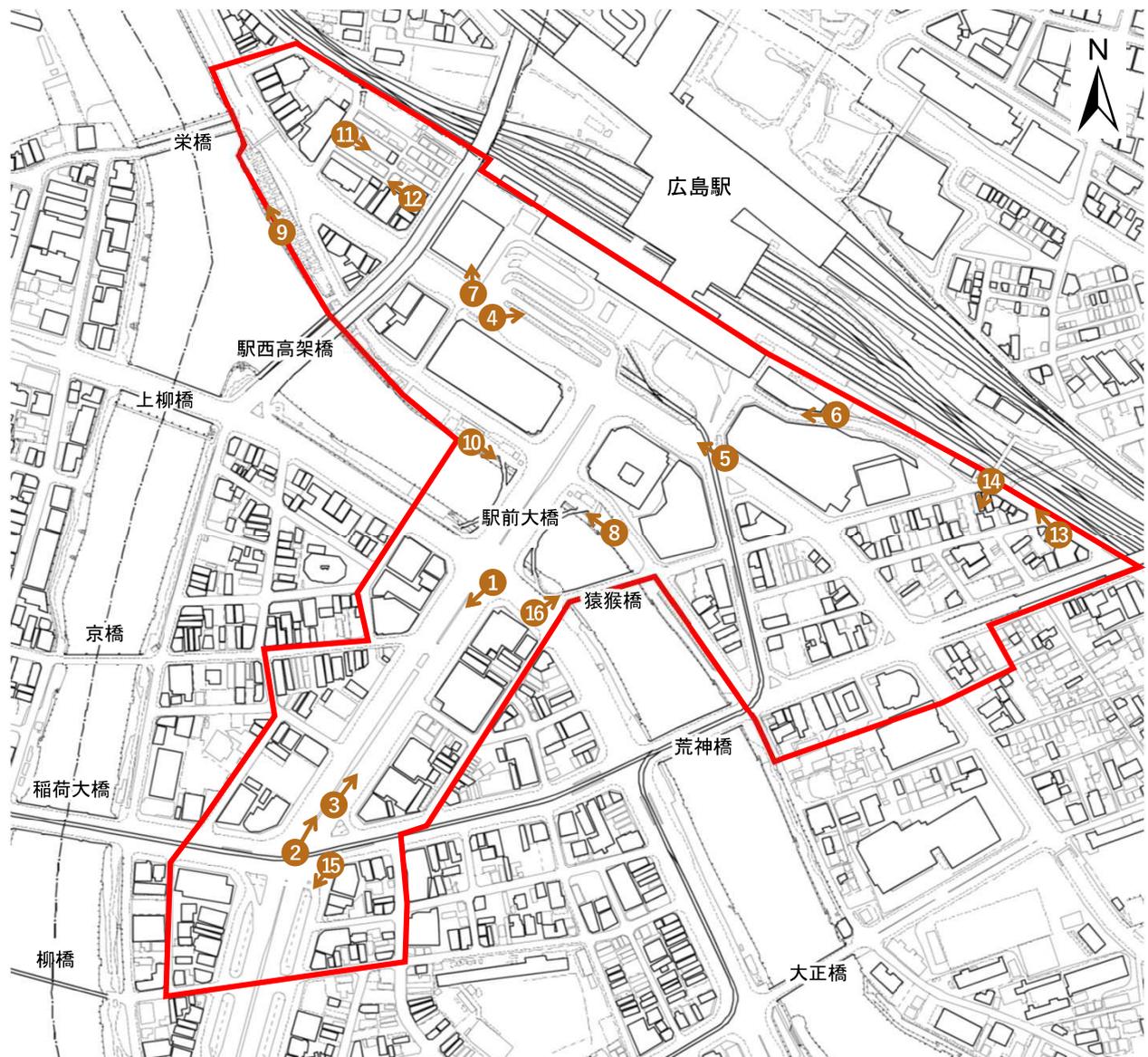
エリアの特徴

広島陸の玄関口である広島駅周辺地区は、紙屋町・八丁堀地区とともに東西の各と位置付け、都市機能の集積・強化を図ることにより、相互に刺激し高め合う「楕円形の都心づくり」を進めているエリアであり、都市再生緊急整備地域の中でも都市開発事業等の円滑かつ迅速な施行を通じて緊急かつ重点的に市街地の整備を推進することが本市の国際競争力の強化を図る上で得に有効な地域である特定都市再生緊急整備地域に指定されている。

本地区のうち広島駅南口・駅前通り周辺では、令和7年(2025年)3月に駅ビルが開業、同年8月には路面電車の駅前大橋ルートが開業した。

路面電車の駅ビル2階への乗り入れにより乗り換えの利便性が向上し、引き続き行っている南口広場の再整備では2階レベルの歩行車ネットワーク構築によるにぎわい創出が図られるなど、市民や国内外からの来訪者が集い、にぎわい、交流できる環境に生まれ変わっている。

また、エキニシエリアやその他駅周辺に点在している飲食街は小規模な店舗が集まっている。

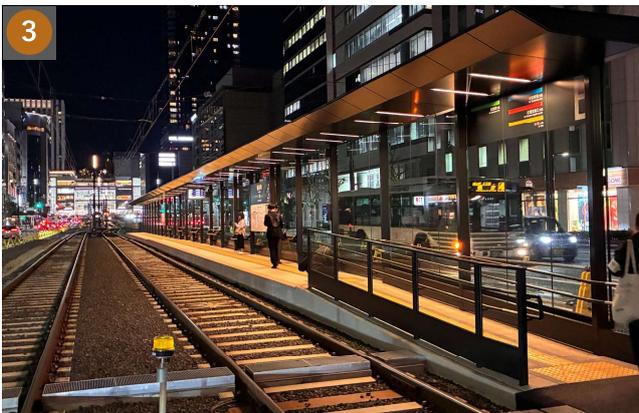




1 路面電車の線路中央に新設されたポール照明は上部の発光面が連続性を効果的に魅せておりプロムナード感を創出している。



2 左と同様のポール照明が駅に向かって連灯してあり、駅に向かって誘われる雰囲気を出している。



3 新設の駅は電球色で明るさも十分あり、安心・安全かつ上品で落ち着いた印象。



4 駅ビルのファサードは淡いカラーで点灯しており、広島の玄関口として今日的な夜間景観形成ができている。



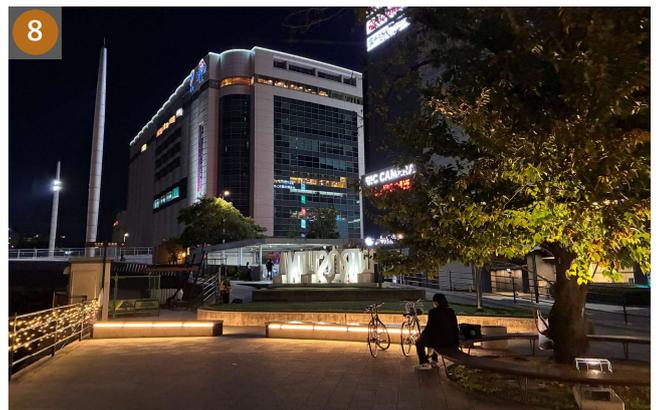
5 駅前の店舗も電球色でファサードライトアップをしており、周辺の夜間景観と調和が取れているが、屋外広告物照明が目立つ。



6 街灯は電球色であるが、拡散配光でグレアがある。



7 駅に隣接するJPビルディングの公開空地は、ベンチ下照明と樹木ライトアップで落ち着いた滞留空間になっており、利用者が多数みられた。



8 猿猴川に面するポケットパークは、今日的な夜間景観となっているが、ベンチ下照明の光源が直接目に入る。



9

駐輪場も漏れ光で歩道の明るさが十分とれている。電球色になると対岸からより良い夜間景観となる。



10

駅前大橋の照明柱が象徴的ではあるが、橋梁路面や橋梁側面は暗い。間接照明やライトアップを実施することが望ましい。



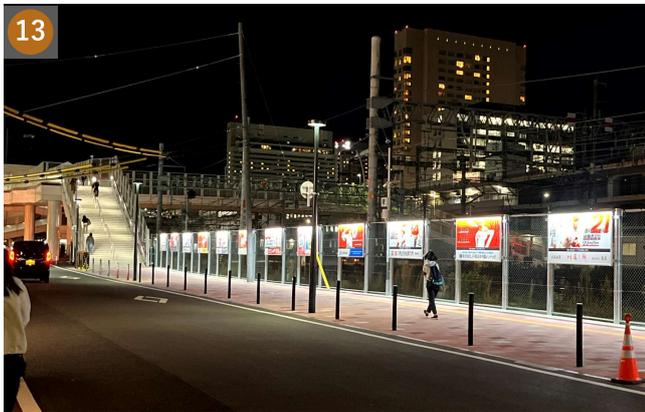
11

エキニシエリアはお揃いの提灯を軒先に吊り下げエリア全体で賑わい感を創出し、良好な夜間景観が形成されている。



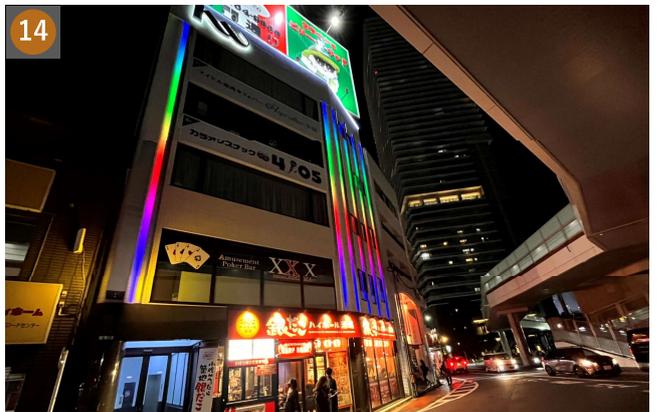
12

奥の飲食店街の暖かなあかりに対して、古い公共照明の緑色のあかりがエリアの雰囲気阻害している。



13

下方配光のボール照明と間接型看板照明でグレアの少ない安心感のある通りになっている。屋外広告物照明が電球色になるとさらに良好な夜間の歩行空間になる。



14

飲食ビルのカラー演出が目立っている。



15

駐輪場の照明が白色の拡散配光で強いグレアがある。

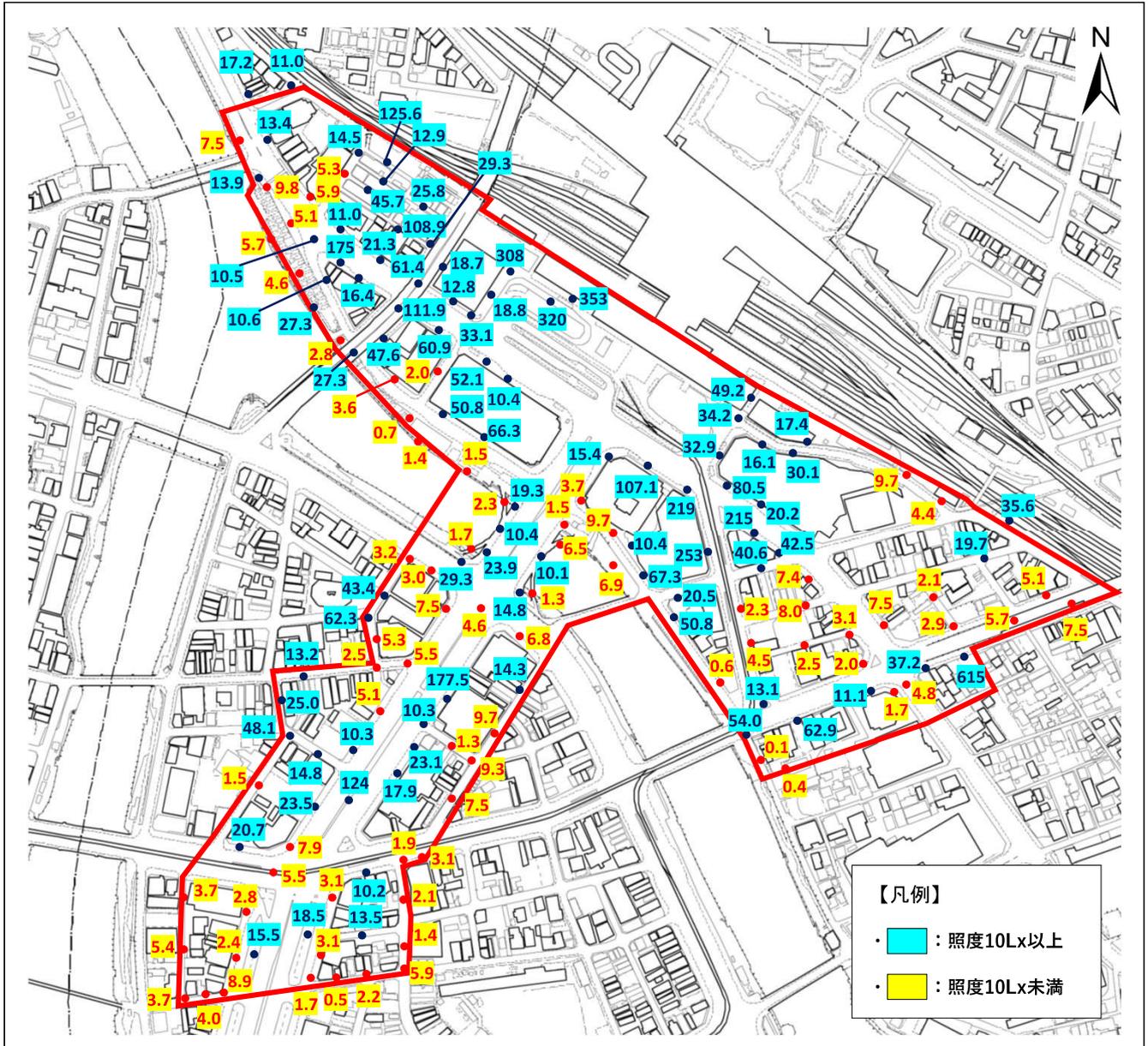


16

猿猴橋と奥の駐車場の灯りが電球色で良好な夜間景観となっている。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	有り
陰影のバランス	最適（整備済エリア）

考察

駅前南口周辺は基本的に電球色で整備されているが、一部グレアのある照明が見られる。今後整備する箇所についてはグレアのない下方配光の器具を選定することが望ましい。

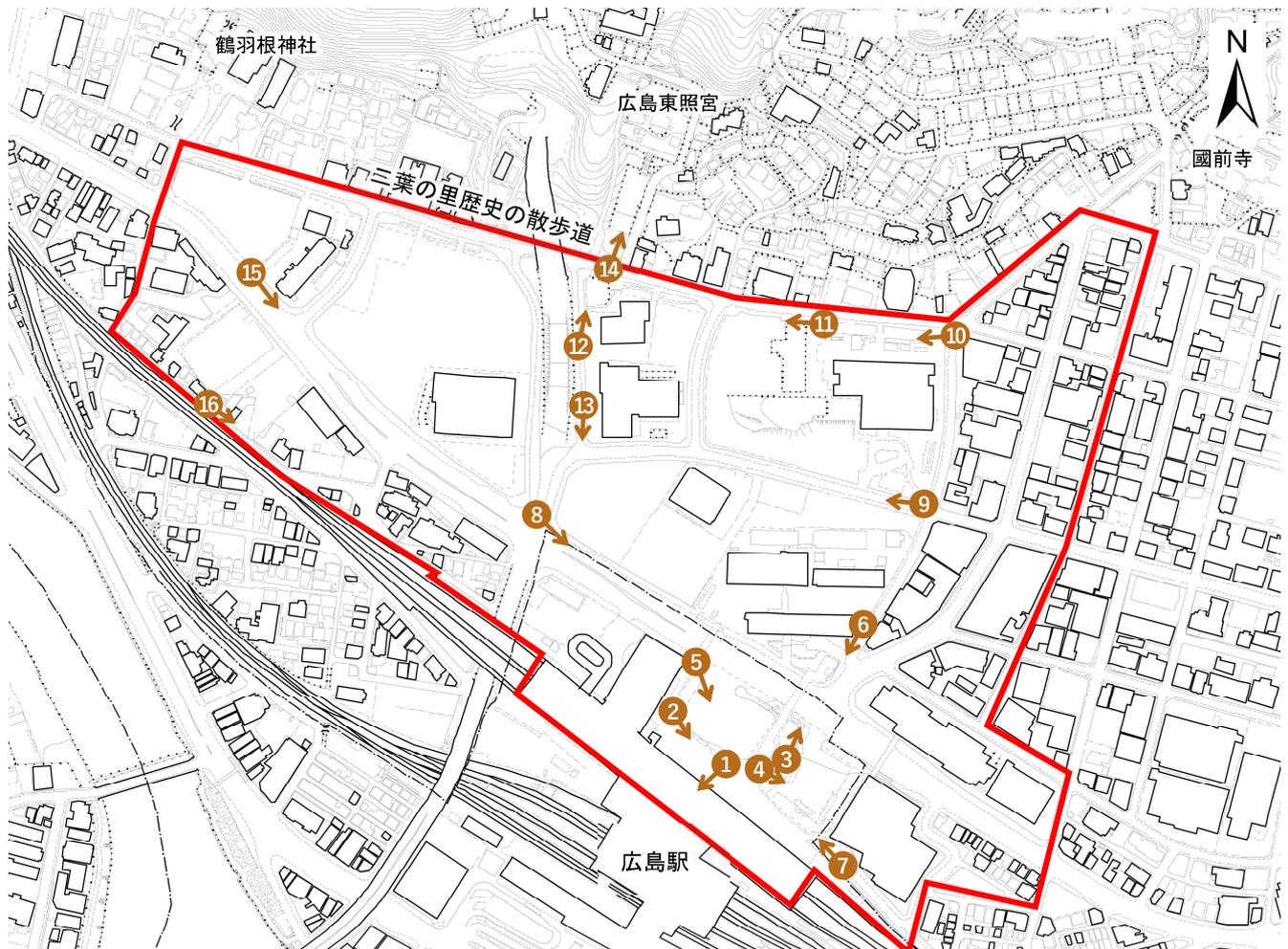
また、エキシエリアでは、レトロなにぎわいの雰囲気の特徴であるが、公共施設照明がその雰囲気を阻害しているため、色温度の電球色化や下方配光化を推進することが望ましい。

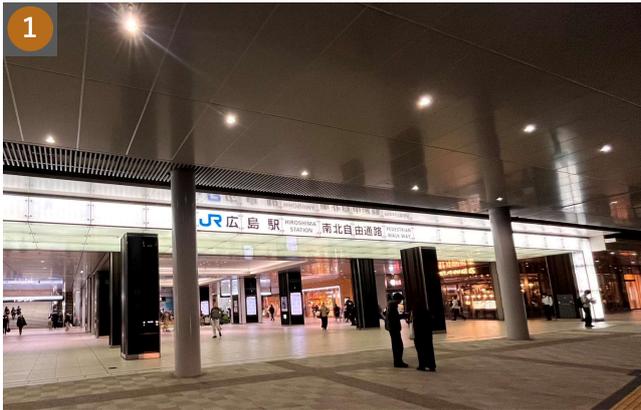
エリアの特徴

広島駅新幹線口は、タクシープールやバス乗り場等車両中心で人流は2階デッキがメインの動線となっている。

二葉の里周辺は、平成26年(2014年)に土地区画整理事業が完了し、ホテルや商業ビル、医療施設、集合住宅等の再開発が進んでいるエリアである。

また、その北側には二葉の里歴史の散歩道が縦横断しており、一部の寺社仏閣が面している。南口側に比べて落ち着いた雰囲気がある。

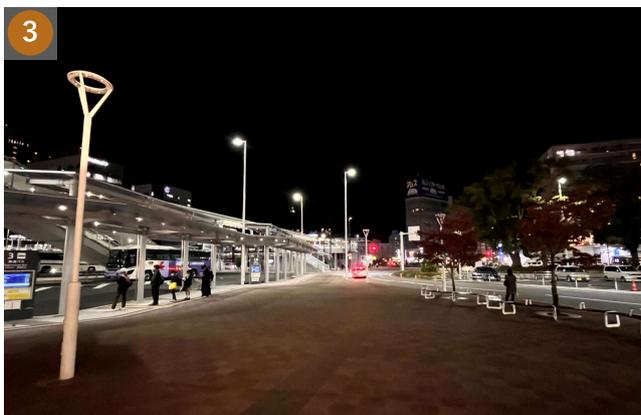




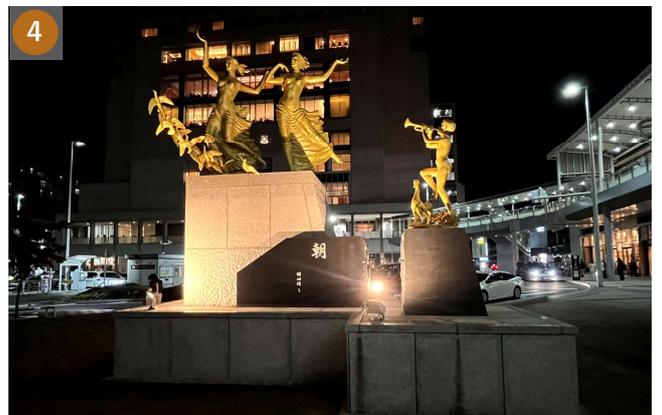
1 新幹線口は白色のゲートで十分な明るさがある。



2 2階デッキ通路のダウンライトは1階から見上げるとグレアがあり照明自体が目立つ。



3 明るさは問題ないが樹木ライトアップによる鉛直面の明るさがあれば、より良い夜間景観となる。



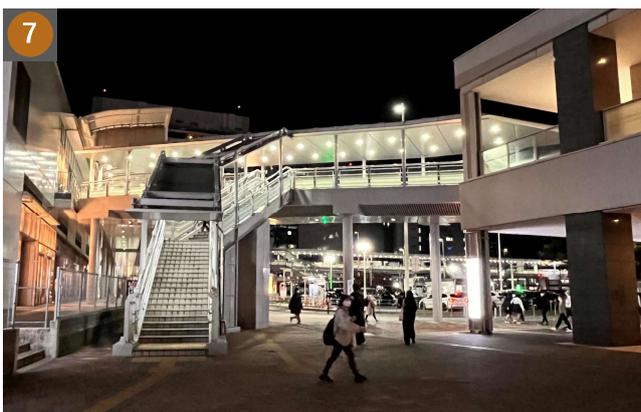
4 モニュメントのライトアップがされているが、視点場によってはグレアがある。



5 駅全体が白色、駅中のテナントや周辺ホテルは電球色と混在している。



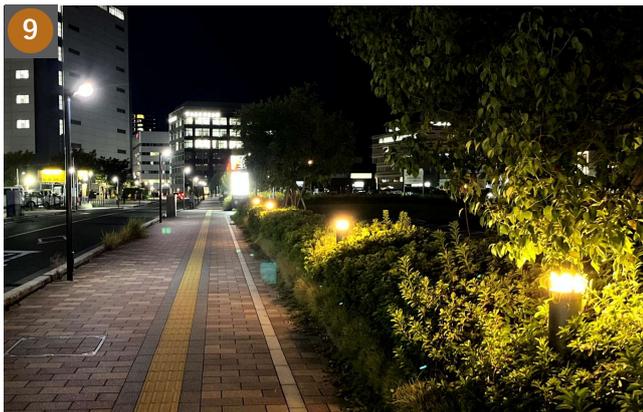
6 ペDESTリアンデッキ入り口の文字表示のみ電球色になっている。



7 駅前広場の照明はグレアがある。



8 駅周辺にはホテルや業務ビルが多く、建物ファサードや敷地内の空地は電球色でライトアップされ落ち着いた夜間景観を形成している。



9

県立二葉の里病院は電球色で統一した夜間景観だが、歩道照明が白色でグレアがあるため、良好な夜間景観を阻害している。



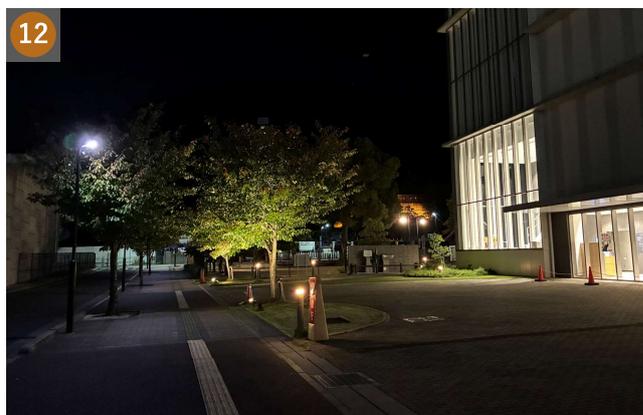
10

二葉の里歴史の散歩道に面している歩道部は統一感のある歩道照明で整備されている。



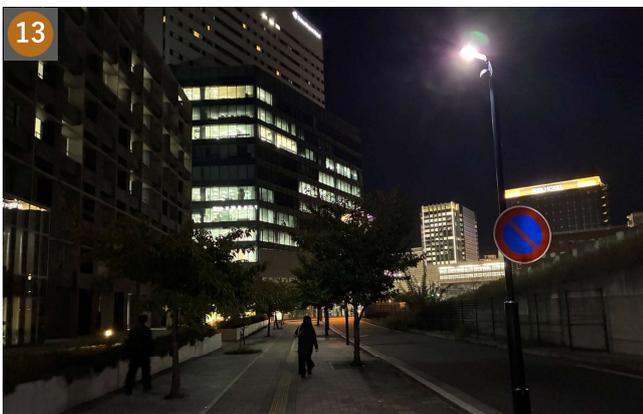
11

二葉の里歴史の散歩道は、土地区画整理事業により整備されたエリアと既存エリアの街路照明が異なり、色味も混在している。



12

歩道部は暗く寂しい印象だが、樹木ライトアップや建物の漏れ光で安心感がある。



13

鉛直面の明るさが無く、不安を感じる印象。



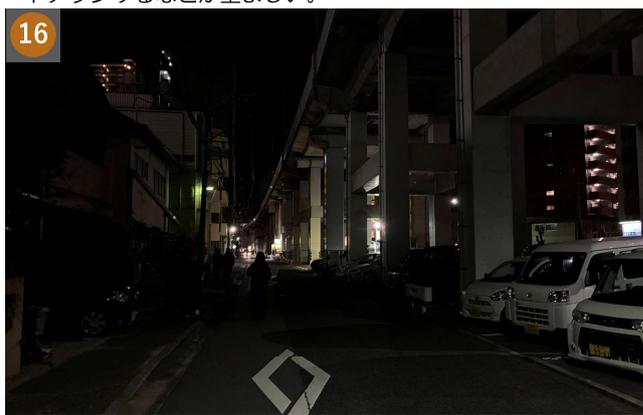
14

広島東照宮のライトアップが見え奥に期待感のある夜景が創出されているが、手前に暗がりがあるので道に面した石柱もライトアップするなど望ましい。



15

民間の集合住宅は全体的に電球色で上質で落ち着いた夜間景観となっている。

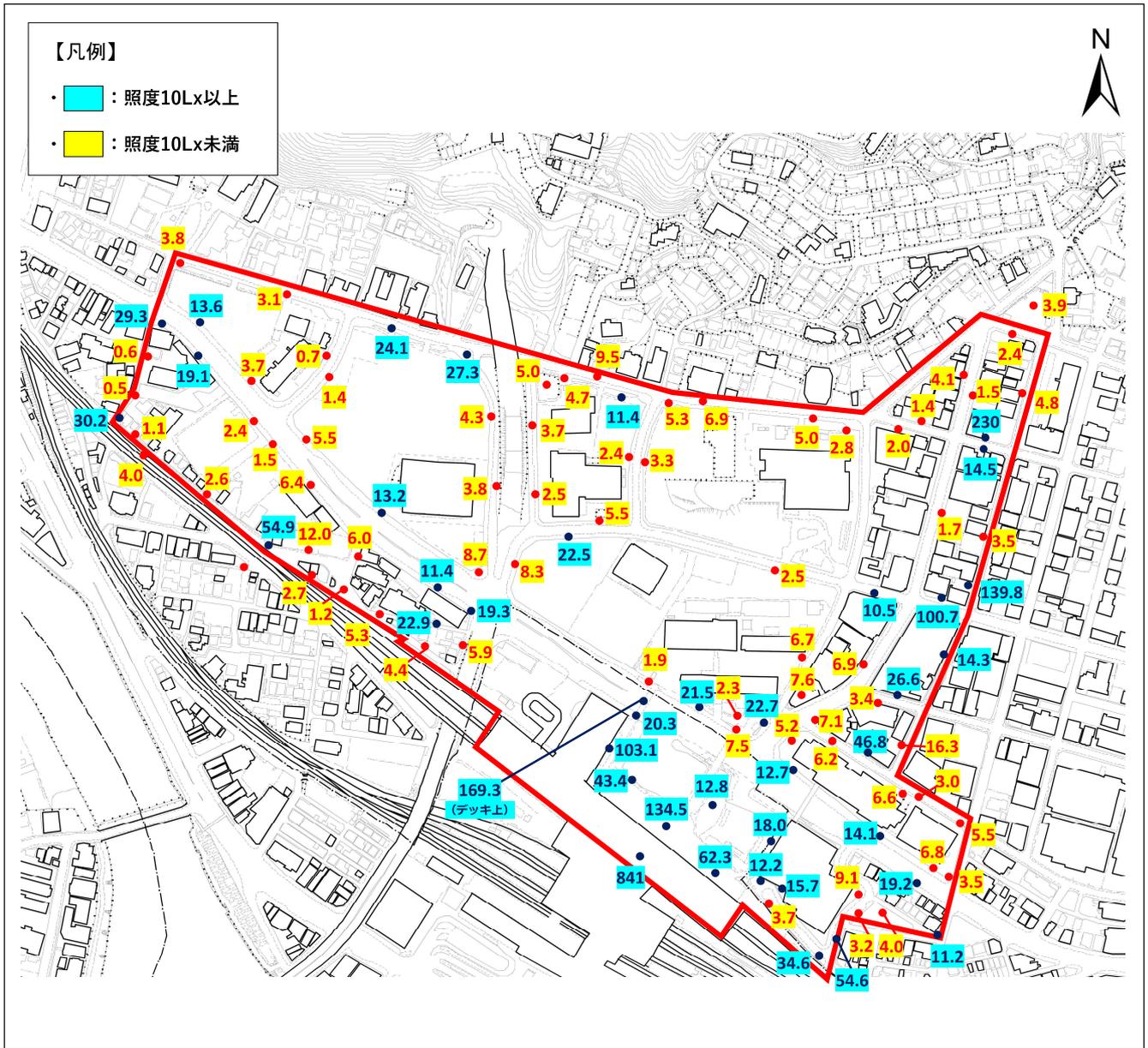


16

線路沿いの細街路は危険を感じるほど暗い。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる (一部)

考察

駅前広場は、地上・デッキレベルともに白色で煌々と明るく、今日的な夜間景観ではない印象。

周辺の比較的新しい施設（ホテル・医療機関・集合住宅等）は電球色で落ち着いた建物ファサードのライトアップや敷地内空地の演出がされており、上質な夜間景観が形成されている。電球色での統一を推奨し、民間では鉛直面のライトアップ、公共では下方配光の街路灯整備などが望ましい。

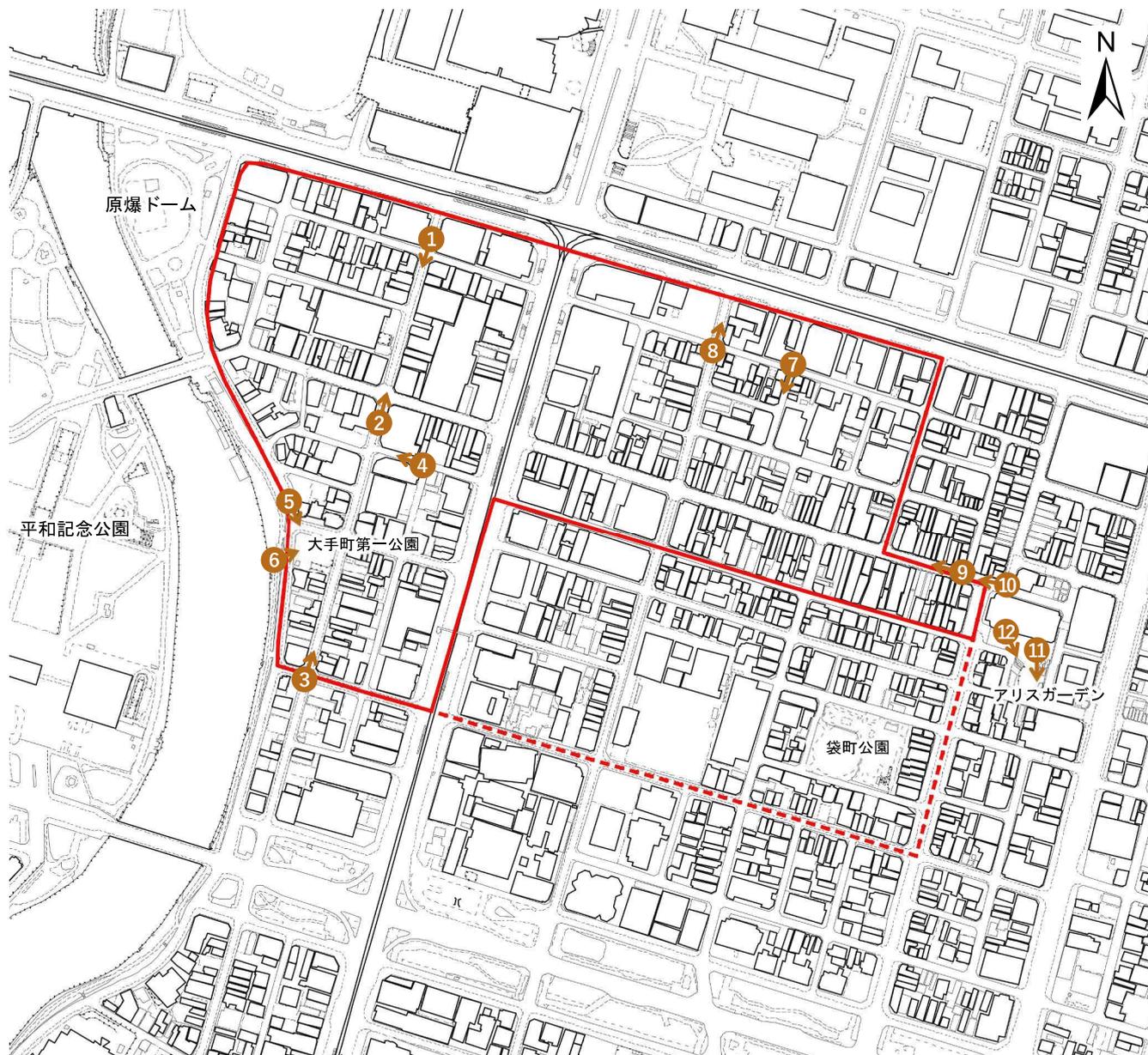
二葉の里歴史の散歩道は、和風デザインの街路照明で統一感があり落ち着いた印象だが、白色の一般的な道路照明が良好な夜間景観を阻害しているため、電球色化が望ましい。

エリアの特徴

紙屋町・八丁堀地区は、広島駅周辺地区とともに東西の各と位置付け、都市機能の集積・強化を図ることにより、相互に刺激し高め合う「楕円形の都心づくり」を進めているエリアであり、都市再生緊急整備地域の中でも都市開発事業等の円滑かつ迅速な施行を通じて緊急かつ重点的に市街地の整備を推進することが本市の国際競争力の強化を図る上で得に有効な地域である特定都市再生緊急整備地域に指定されている。

そのうち、本地区はアーケード商店街や業務・商業施設などが連なる繁華街である。

また、平和記念公園にも隣接する地区であることから、低層階においてにぎわいや楽しさを演出しつつ、都心の目抜き通りを中心とした商業・業務地区にふさわしい街並み景観の形成を図るとともに、高層階については平和記念公園からの見え方に配慮することとしているエリアである。

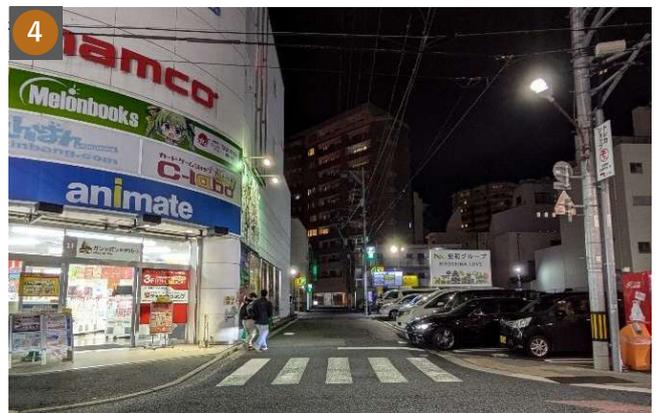




1 様々な色彩や色光が混ざり合うエリア。屋外広告物照明のルールを定めて整えるだけでも“にぎわい・おもてなし”に適した良好な夜間景観になる。



3 細街路の街灯は、白色でグレアがある。



4 商業施設からの漏れ光は、白く寒々しい印象を与える。



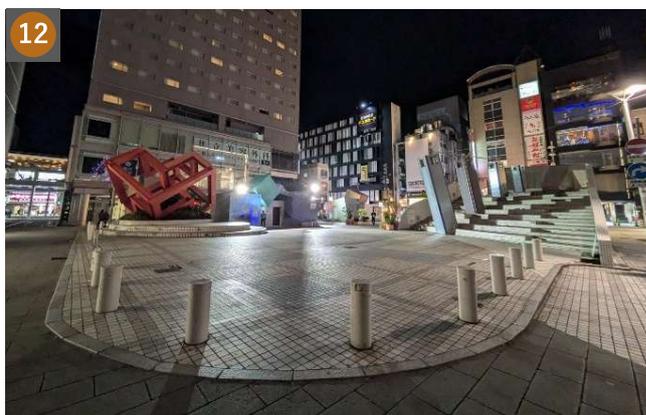
5 大手町第一公園

遊具や緑のある都市公園。遊具もベンチも暗がりにもまれてしまい、夜間の利用に適さない。拡散発光する白色外灯のみの公園照明から脱却し、樹木のライトアップや間接照明を取り入れた令和らしいパブリック照明に更新できれば、心地よい場所になる。



7 店舗のファサードは、間接照明を利用したシックなタイプ（主に個人店舗系）とコーポレートカラーの内照看板を掲げるようなタイプ（主にチェーン店）に分かれる。

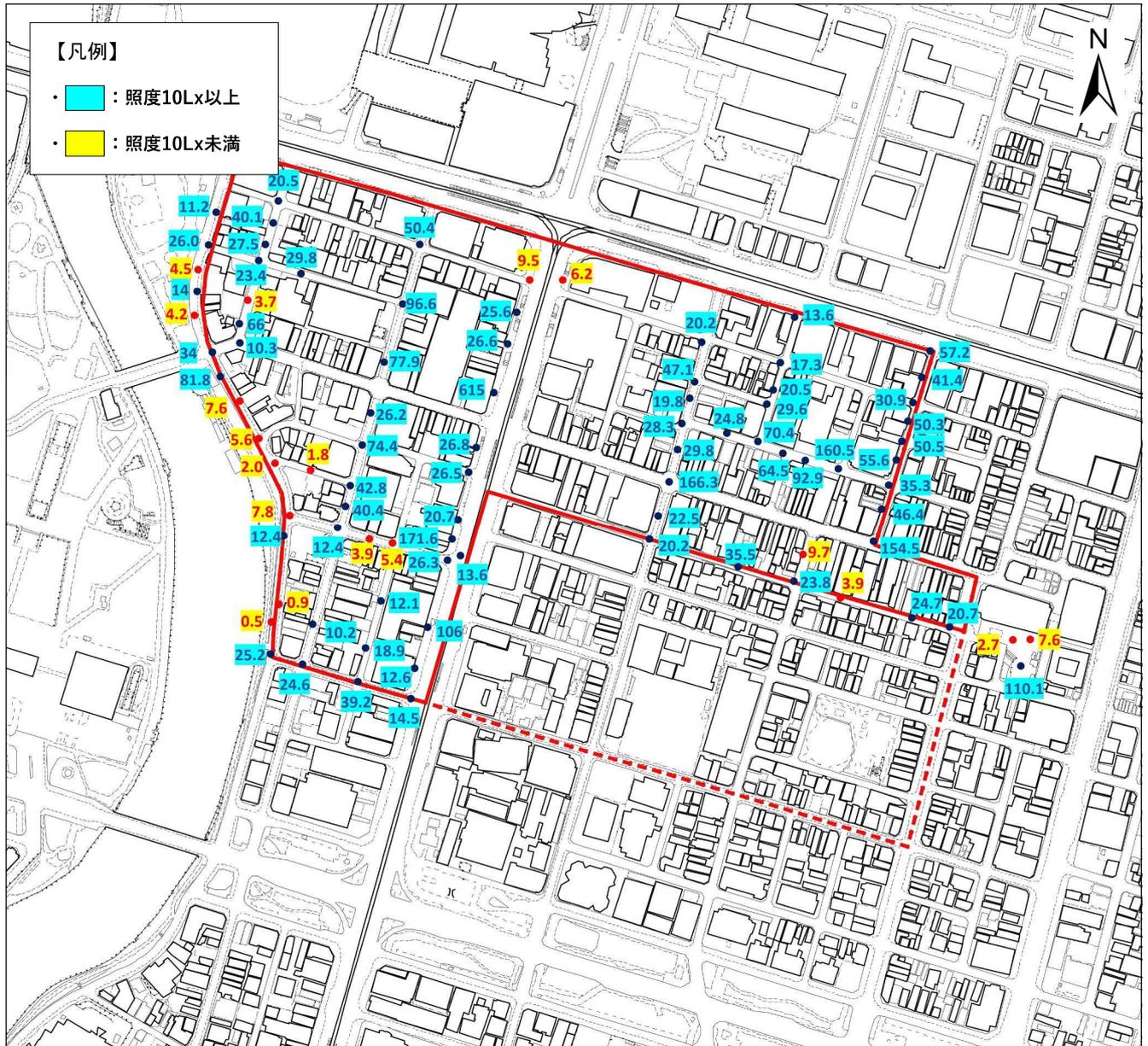




個性的な造形の工作物やファニチャーで構成されたポケットパーク。造形が面白いため、間接照明などの演出でこの広場は魅力的に改善することができる。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる (細街路)

考察

紙屋町・八丁堀地区の路面店境界は、全体的に店舗の電球色照明に対して街灯の白さが目立ち、グレアの改善が必須。

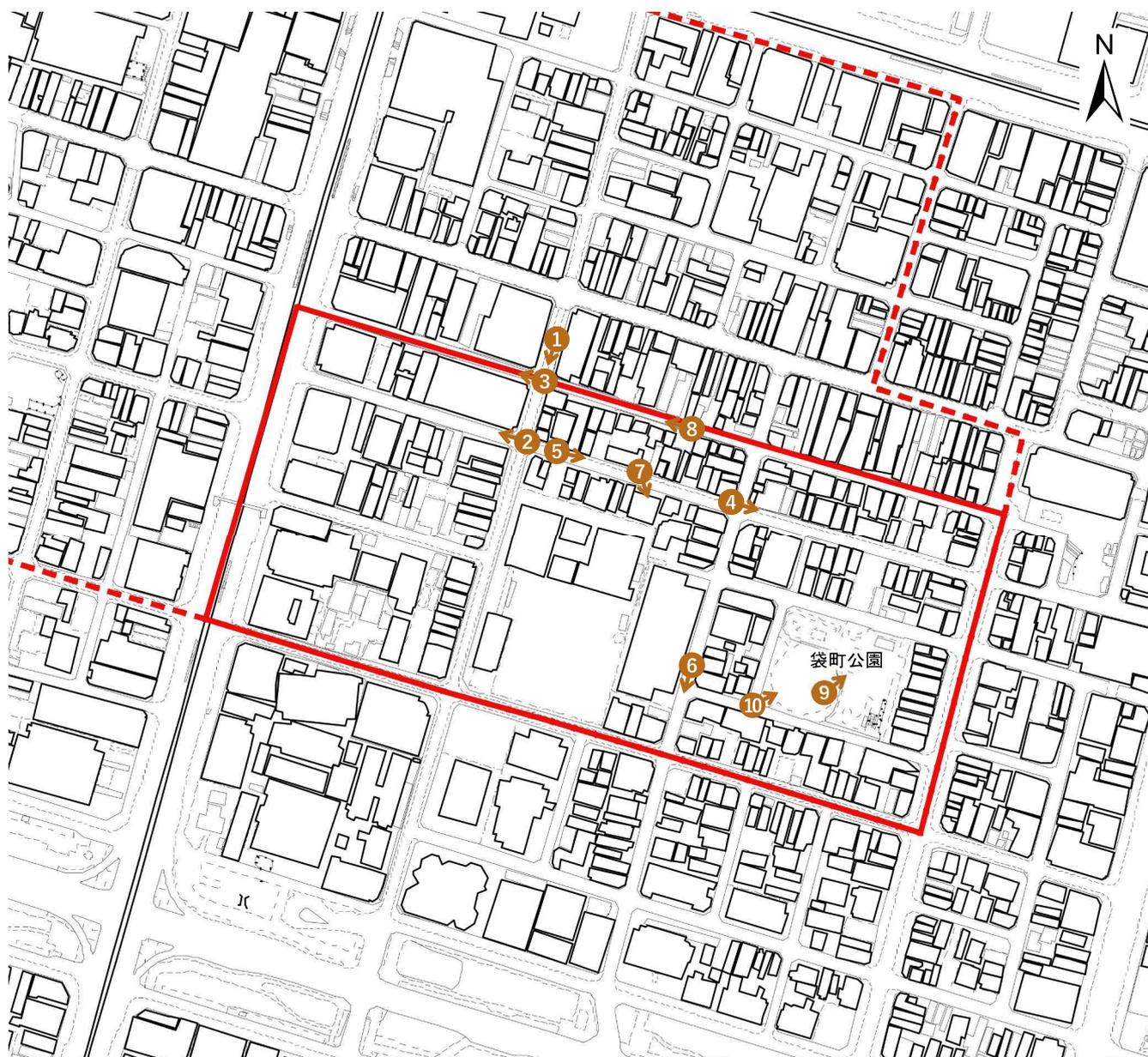
大手町第一公園は、現在は危険を感じるほどの暗がりとなっている。

遊具や樹木をライティングすることで、美的景観と安全・安心を同時に獲得できる。

エリアの特徴

紙屋町・八丁堀地区のうち、本地区は、エリアマネジメント団体や地元商店街振興組合等が中心となって、歩行者優先でにぎわいの創出につながる道路空間再整備を目指しているエリアであり、本市もこうした動きと連携・協働しながら歩行車環境の改善に取り組んでいる。

低層の建物群の中に多様な業態の民間商業店舗が点在するにぎわいがありながらもシックな雰囲気を演出しているエリアである。





統一された電球色の歩道照明がエリアイメージに貢献している。



店舗などではあかりもレトロなものが好まれ、自ずとエリアの夜間景観形成に貢献している。



近年整備された複合商業施設の落ち着いた電球色のあかりに対して白色の街灯・駐車場照明が邪魔をしている。



商業施設の暖かなあかりに対して、街灯の白くグレアが高いあかりが、エリアイメージを阻害している。





袋町公園

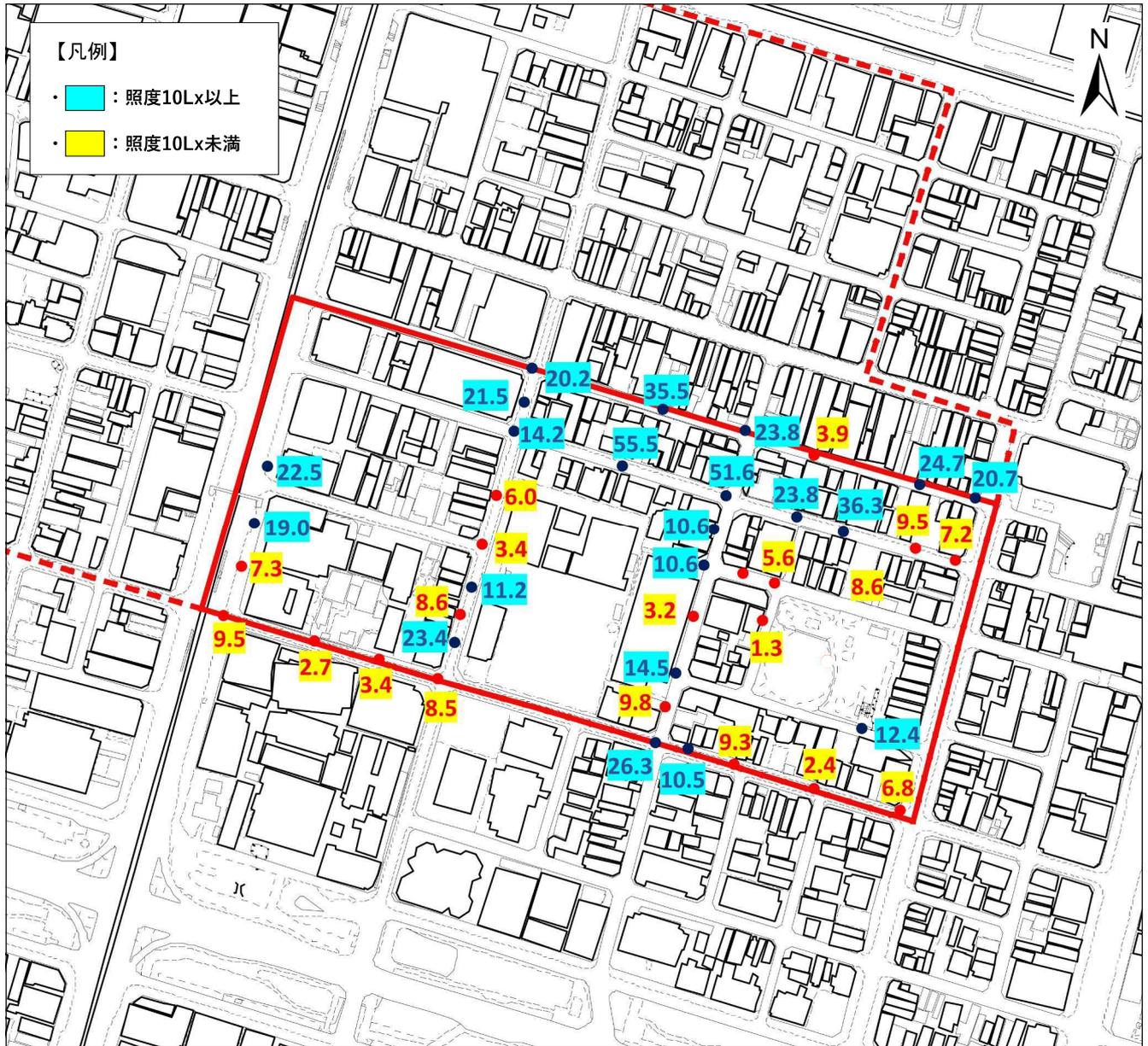


袋町公園

繁華街の中心にありながら、周囲を囲むように豊かに育った緑が暗がりをつくっている。また、公園の中央部に投光が全く無いため、公園内はどこにいても暗がりを感じる。

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	無し
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

考察

路面店の商業施設が点在するエリアとして、基本的には紙屋町・本通り地区と同様の考察となる。

袋町公園は、繁華街の中にある広く見通しが良い公園でありながら、周囲を囲むように列植された樹木が暗がりを作っているため、危険を感じる印象がある。中央の芝生エリアも薄暗いため、まずは安心感の創出が求められる。

エリアの特徴

業務施設と商業施設が混在し、官公庁施設に隣接する広島のビジネスエリア。

沿道には飲食店も多い。

隣接する街区では、現在、紙屋町・八丁堀地区の活性化に向けたリーディングプロジェクトである「基町相生通地区市街地再開発事業」が建設中であるなど、再開発が活発に行われているエリアである。





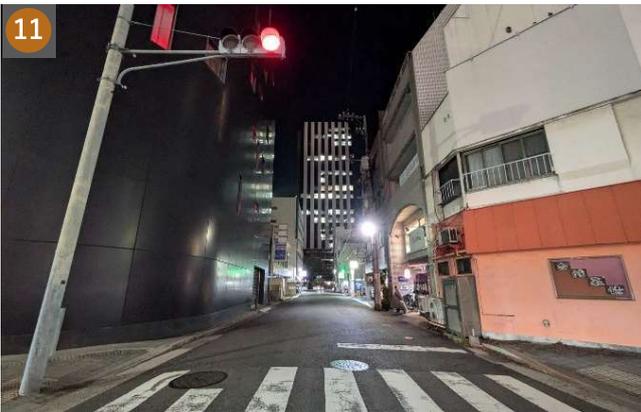
病院、ホテル、業務ビルや商業ビルなど多様な業態の商業・業務施設が密集する都心らしいエリア。民間照明も現在は無秩序な状況。通り単位で統一した印象を形成するなど、その必要性も含めて民間に意見聴取などを行いながら方向性を探るのが良い。



9



10



11



12

京口門公園



13

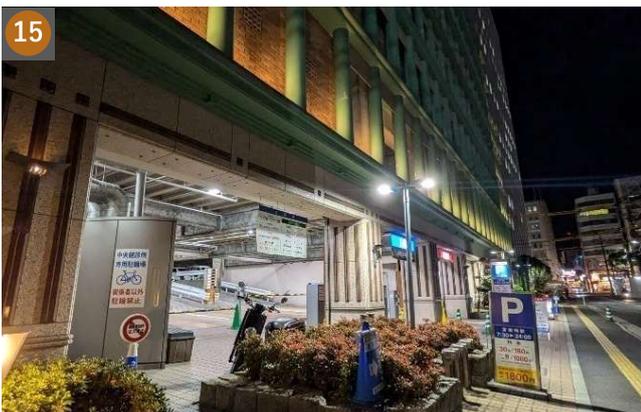
京口門公園



14

広島ビジネスタワー

新しい業務ビルの公開空地などは、電球色のあかりと樹木ライトアップなどが実施されており、心地よく、エリアの安全・安心にも寄与している。



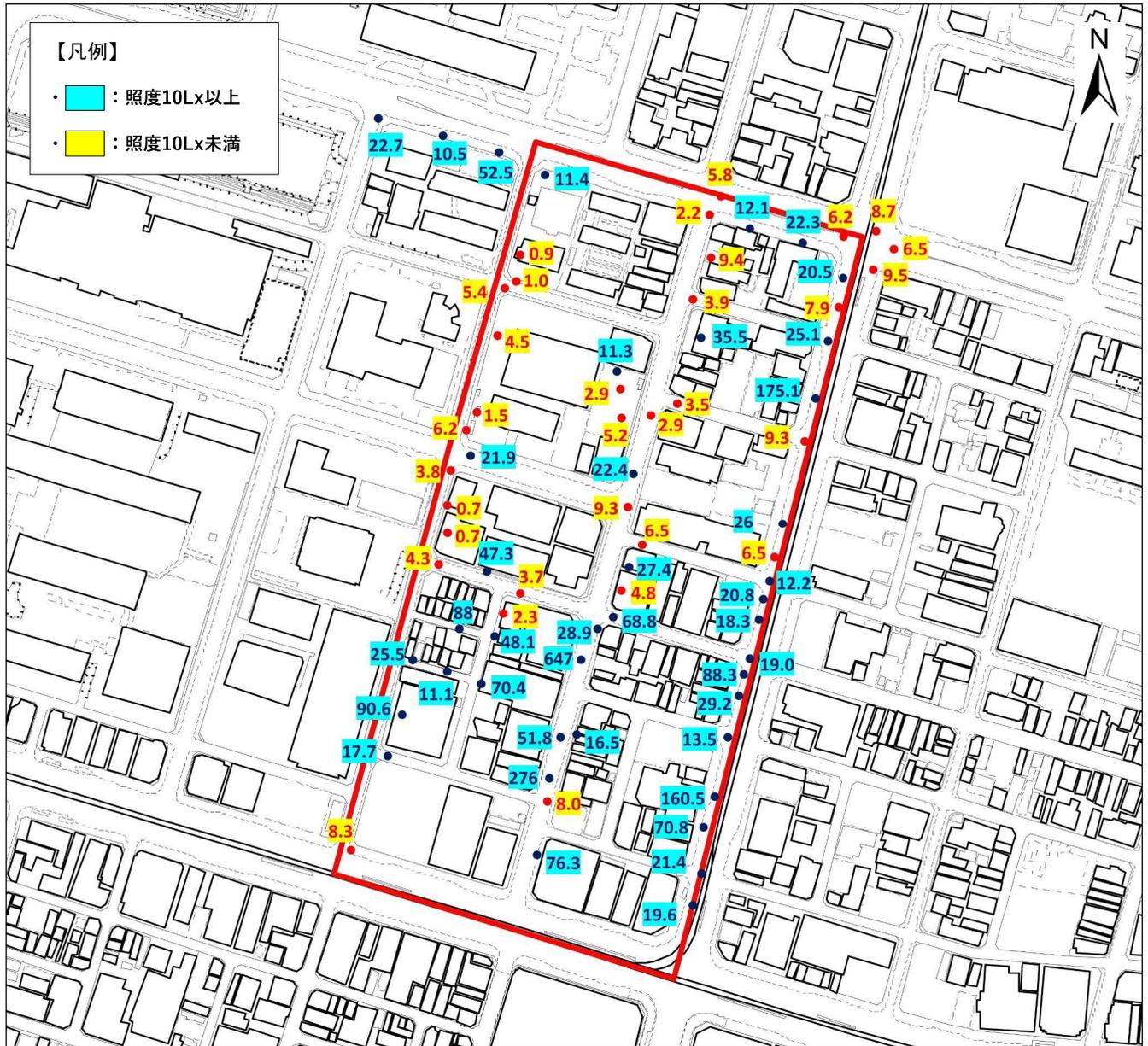
15



16

照度分布

単位：Lx（ルクス）



調査エリア全体の評価

色温度	混在
グレア	有り
鉛直面の明るさ	有り（一部）
陰影のバランス	暗い、暗すぎる

考察

路面店の商業施設が点在するエリアとして、基本的には紙屋町・本通り地区と同様の考察となる。

エリアの特徴

片側三車線の車道と路面電車が整備された広島市中心部の幹線道路。

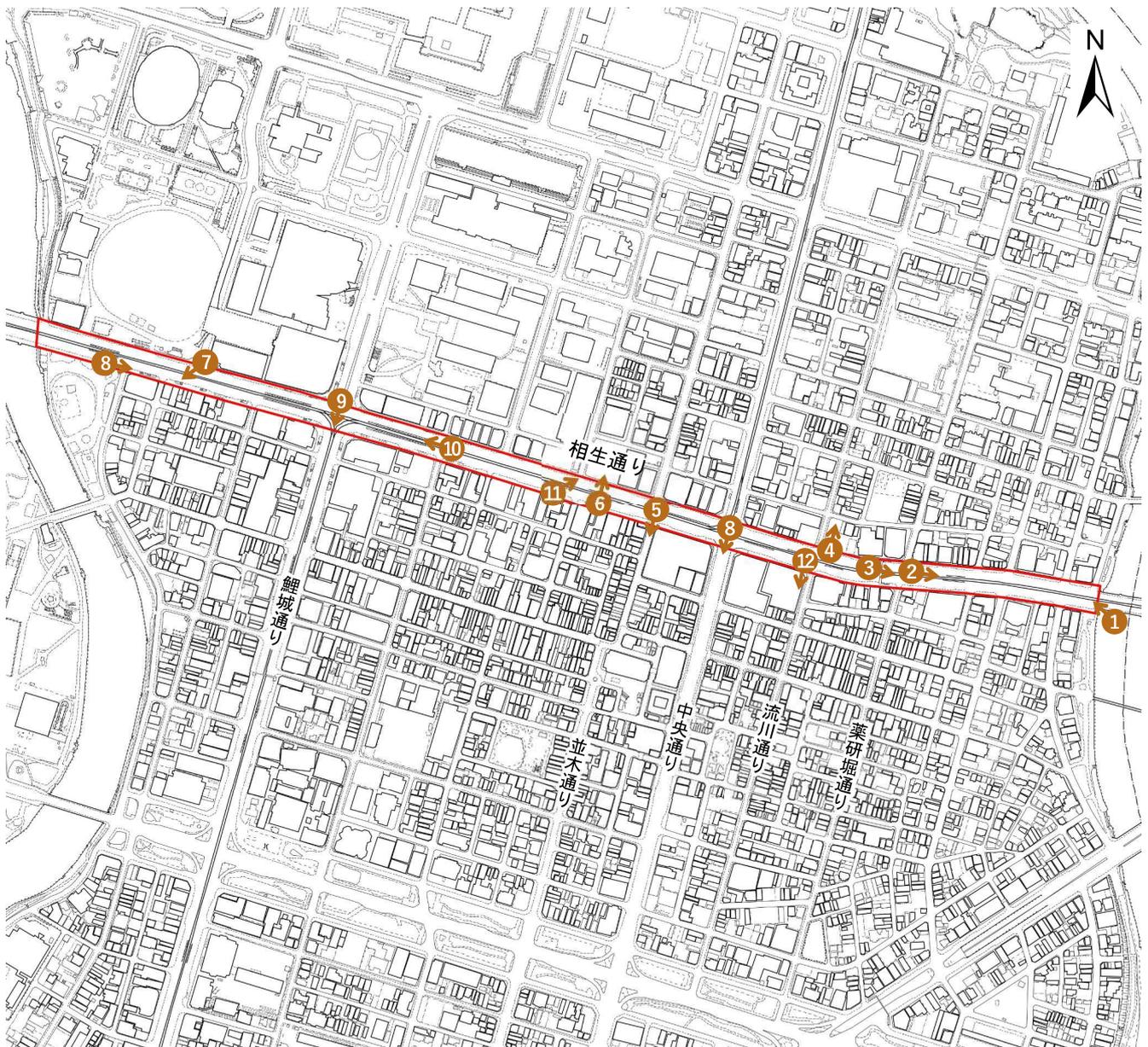
沿道は業務ビルや大型商業施設などが立ち並び都会らしい景観となっている。

高密度な商業・業務系施設が集積している都心の目抜き通りであるとともに、市民や広島を訪れる多くの人々が行き交う地区であり、歩行者の目線で捉えた都心にふさわしい風格とにぎわいのある街並みの景観づくりを進めているエリアである。

沿道は現在建設中の「基町相生通地区市街地再開発事業」をはじめ、業務ビルの建替えが進んでおり、より一層、都会らしい景観が形成されている。

また、令和6年(2024年)には、エリアマネジメント団体が「相生通りの将来像に関する提言書」を取りまとめるなど、官民連携のまちづくりが取り組まれている。

また、中四国最大の歓楽街である流川町や堀川町などにも隣接するエリアである。





稲荷大橋側から俯瞰



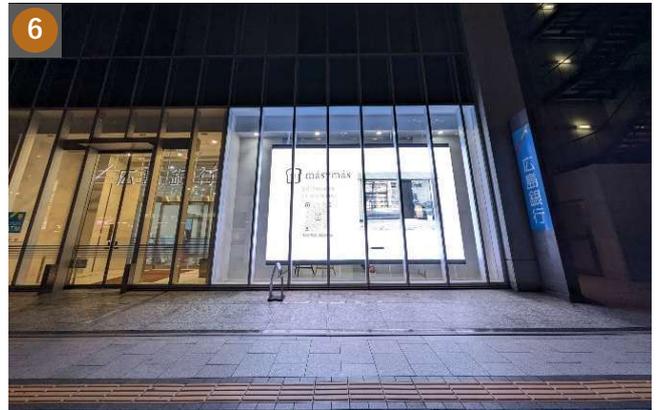
胡町歩道橋



胡町歩道橋



白色HIDの道路照明とナトリウム灯の装飾照明からなるオリジナルの街路灯が整備されている。こうした照明手法は、色温度や配光などが今日的ではなく、歩行者を意識した光環境への再検討が必要。



おりづるタワー

広島都心の中心道路であり、沿道には多数の業務・商業施設が立ち並んでいる。特に屋外広告物の照明は夜間景観に与える影響が大きいので、ルールを定めることが良質な夜間景観の形成につながる。



9

紙屋町交差点



10

立町電停付近



11



12

流川通りなど、中四国を代表する歓楽街の顔としてゲート演出が施された通りと交差している。

(参考) 流川・薬研堀地区



新天地



堀川町



銀山町

歓楽街は、民間が夜のにぎわいを重視して発展してきたエリアであり、新宿歌舞伎町などと同様にあかりの統一したルール作りには向かない。逆に、繁華街のネオンや内照看板の並ぶ風情を積極的に守っていく必要がある。